

〈 論 説 〉

行政学者・政治学者の主観的公共倫理観：Q 方法論を用いた公共倫理観パイロット調査より

箕輪 允智

1. 問題設定

本研究は「公共倫理」というものを中心的な議論の題材にする。一般的に政治家、官僚をはじめ政策決定や実施、公共的なマネジメントの現場に携わる人々は、倫理について議論することを避ける傾向にある (Jonsen & Butler, 1975)。政治家や実務の現場で公共倫理という問題の議論が避けられる理由がある。それは倫理というものが抽象的であり、規範的であるが、政策の決定や実施は、ある一方の観点、ないし利害関係者からは「倫理的」であると考えられたとしても、別の観点、利害関係者からは「非倫理的」であると考えられるというように、政策の決定や実施プロセスの正当性に矛盾をもたらすためであろう。

一方で政治学、特に、実践的なマネジメントや意思決定、実施の領域を検討する行政学や政策学においては、公共倫理に関連する研究は少なくない。特に、ストリートレベルの官僚の裁量をめぐる問題 (Lipsky, 2010) をめぐり、行政官や警察官の汚職をめぐる問題 (Blundo et al., 2008; Brown, 1981; Vichit-Vadakan, 2017; Warren, 2004)、常に国際学会で論点の一つとされるが、その背後に公共倫理という問題は付随している。また、LGBTQ やホームレス、若者の貧困対策など、社会的弱者に関する政策に関する問題なども背景にある問題として存在している (Johnson III et al. 2018)。この点、目の前の汚職などの行政実務において目の前の問題を早急に解決することが求められる重要な課題で

あるとして議論はなされている。

また、公共倫理は本質的に偶発的なプロセスという側面もある。公共倫理はある特定の時代や場所に根ざすものであり、その実践的な議論によって成り立つものである。さらに公共倫理は高度に政治的な産物でもある。その時々々の公共倫理の正統性に関する社会規範の影響も受ける。また、その時々々のメディアや世論の影響を受けることもあり (Montgomery, 2013)、地域の伝統文化や宗教的信念も大きな影響を受けるものでもある (Müller, 2001)。そして、公共倫理は個人がそれぞれ有する考え方であり、極めて主観的なものである (Wang & Murnighan, 2014)。

このように、公共倫理は有為転変のものではあるが、実践的かつ哲学的な問題であり、汚職問題やその対策など、行政実務における目前の問題の解決に直結する重要な問題である。しかしながら、人々の公共倫理の概念全体について一定の整理を行い、加えてデータに基づいて概括しようとする研究は日本においては十分に積み重ねられているとは言えない。なお、国際的にも汚職や貧困等実務的な問題解決を目指す課題としては取り上げられているが、その背後にある人々の公共管理観はいったいどのようなものか、という基礎的な議論は十分に積み重ねにおいても十分であるとは言えない。

それを踏まえ本研究の問いは「公的領域 (public sphere) の形成に関わるアクターがどのような公共倫理観を有しているのか」を前提とする問いとする。

その中でも、本稿はパイロット調査として、その中でも公的領域の形成に深く関わる政治や行政というものを学術的対象として研究・教育している、行政学者・政治学者を対象に、どのような公共倫理観を有しているのか、について2023年6月にオンライン上で調査することができた。本稿ではその結果について、探索的分析と解釈を示していく。

本稿は、公共倫理というひとつの特徴的な視点を総体的に明らかにすることによって、調査回答者らの認識や態度を体系的に「理解」することを目指している。それは人間の主観的認識を明らかにすることでもあり、そのための手法として心理学者の Stephenson (1935) によって開発された Q 方法論を用いる。

Q方法論は、あるトピックに関する思想の主要な共通性を明らかにすることにある。本研究の場合はそれが「公共倫理」に該当する。この方法は、項目を比較して一つの最も良い答えを探すのではなく、調査回答者の思考の多重性と複数のパターンを捉えようとするものとなる。さらに幾つかのパターンを捉える際には、調査回答者の中で比較的多数派の優勢な視点のパターンと少数派の視点のパターンといったものも見出すことができる。さらには合意点や対照的な領域を検出することもできる。

2. 公共倫理と公共サービス動機付け、NPM、ガバナンス論

（1）公共倫理とPSM

公共倫理は、近年多くの研究成果を生み出されている公共サービスへの動機づけ（Public Service Motivation, 以下 PSM）と一部重なり、相互依存的な領域にある。市民的義務、公益への献身、思いやり、自己犠牲、民主的ガバナンスといった公共サービスの動機付けの次元が、そもそも Perry and Wise（1990）によって最初に特定され、その後実証的研究で発展した。そこでは多くの典型的な公共サービスに対する倫理的価値意識を反映するものとなった。

Wright et al.（2016）の研究では、上司と部下の関係認識における PSM が高いほど、部下が公共倫理的リーダーシップを発揮していると認識される可能性が高いことが実証的に示している。他の研究では、Brewer & Selden（1998）は Q方法論を用いた主観性の分析により PSM と公共倫理の結合が試みられている。Ripoll と Breugh（2019）は公務員の非倫理的な判断と PSM への関係を統計的に検証し、Ripoll と Schott（2023）は約1500人のカタルーニャ地方での市民調査をもとに PSM と非道徳性との関連性として非倫理的行動の正当化行動を実証している。また、汚職をめぐる公共倫理と PSM の原因と関係を探ろうとする研究も少なからずある（Kim, Y.J. & Kim, E.S., 2016; Bellé, N., & Cantarelli, P., 2017）。このように、公共倫理と PSM は互いに関連し、切り離すことができない関係にある。

（２）公共倫理と NPM、ガバナンス論

公共倫理を考える上では、1970年代のサッチャー政権に始まる大規模な行政改革や、1990年代以降の先進糊口を中心とした New Public Management（以下、NPM）やガバナンスの議論によって行政や公的空間に対する考え方の変化が生じたことを逃しておくことはできない。

NPM ドクトリンにおいて、Lee et al. (2020) は行政をはじめとする公的空間において業績主導型の組織文化が強調されたことを示している。Kernaghan (2000) は民間部門の価値観を公共部門に適用することが増えていく中で、伝統的な公共サービスの価値観と、民間セクターの経験に基づくアプローチを含む、公共組織を組織化し管理するための新しいアプローチから生じる「新しい」価値観との調和を求める者も増えていることを指摘した。de Bruijn と Dicke (2006) は市場メカニズムが公的領域に流入してきた民営化についての公共的価値を示した。Jørgensen と Bozeman (2007) 経済的個人主義の時代における政府機関の領域だけではない公共価値の考え方、Frederickson (2005) はそのような経営主義が公的領域に侵入してくる際に公平性の問題が再考すべき課題として浮かび上がってくることを示している。また、Maesschalck (2004) は公共マネジメントにおけるコンプライアンスの重要性を指摘している。

Maesschalck et al. (2008) は公的倫理や価値意識の観点から論文をレビューした上で PSM に関係する論文は多いものの、多くの公共的部門の倫理的価値意識がその概念に含まれていないことを指摘した。そこでは社会に対する、ある種の対外的説明責任（公益、社会正義、無私、民主主義など）に関する価値観は含まれるが、ゲームのルールや意思決定の倫理、組織的側面（公平性、腐敗防止、透明性、誠実性など）に重点を置く価値観はあまり重視されていない、という。公共倫理は PSM に比べてより曖昧な概念であり、それと同時に、文化的、文脈的、組織的、制度的背景といった広範囲にわたる考慮すべき事項を包含しているものでもあることを指摘した。PSM の概念に統治価値の一部またはすべてを含めない理論的理由もあるかもしれないが、公共的価値全体は包括しておらず「統治（ガバナンス）の完全性」の価値も除外されている

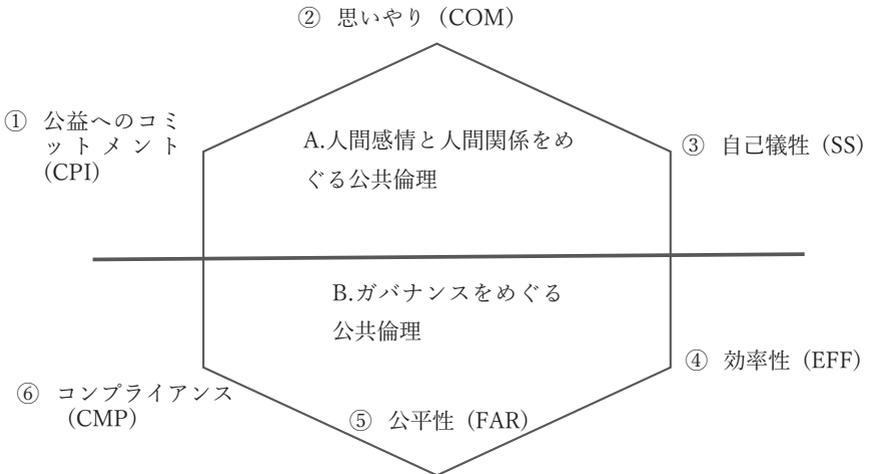
と指摘した。

(3) 公共倫理の探索のためのスコープ

これらを踏まえて本研究では本研究では、PSM と相互依存的な領域な側面と、組織的ともいえるガバナンスに関わる側面を2つカテゴリとして包摂し、それぞれに連動する3つのサブカテゴリを設定し、公共倫理に対する認識として明らかにしていきたい。カテゴリとしては、人間の内面や関係性に関わる

表1 公共倫理探索のための視点

カテゴリ	サブカテゴリ
A. 人間感情と人間関係をめぐる公共倫理	① 公益へのコミットメント (Commitment to Public Interest; CPI)
	② 思いやり (Compassion; COM)
	③ 自己犠牲 (Self-Sacrifice; SS)
B. ガバナンスをめぐる公共倫理	④ 効率性 (Efficiency; EFF)
	⑤ 公平性 (Fairness; FAR)
	⑥ コンプライアンス (Compliance; CMP)



A. 人間感情と人間関係をめぐる公共倫理、組織や政策的選好を含む、B. ガバナンスをめぐる公共倫理とし、サブカテゴリとしては以下の表1のように分類することとした。

これらはそれぞれ時に対立・矛盾することもあり、特定のサブカテゴリ意識が強く現れたりすることもあるだろう。これらの価値意識は、個人（一人の人間としての統制・ガバナンス）や組織のガバナンスに関ってくることになる。

3. どのように公共倫理を把握するか

（1）Q方法論

先に提示した視点に基づいてどのように公共倫理を把握するかということについては、心理学者 Stephenson（1935, 1953）の開発した人間の主観性の把握を目的とした調査分析方法であるQ方法論を用いる。本研究は一般的なアンケート調査として親しみのあるリッカート尺度法で統計的な実証を行うことなく、探索的分析を通じた一定の思考パターンの類型を探索することが目的である。Q方法論によって分析することで、この倫理的価値意識の自己・他者関係への分布（A）と組織に対する個人的行動規範としての倫理（B）を重ね合わせた優先順位配列の分析で、参加者の主観的・総体的な「公共倫理観」を探り、把握することができ、より実態的な公共倫理観を示すことができる。

（2）Qコンコース⁽¹⁾の設計

Q方法論においては主観性を把握するために一連の言説群や絵、動画などを調査参加者に示し、調査参加者はそれを読み、あるいは見て自身でその言説等を解釈し、優先順位を他の言説項目等と比較して決定する。そのため、この言説群となるQコンコースの設計がQ方法論研究でどのような主観性を把握するかを左右する。

(1) Qセット (set) またはQ記述 (statement) とも表現することがあるが、ここではコンコースと呼ぶ。

本研究での Q コンコースの設計に関しては、基本的には既存の PSM 研究や公的価値意識に関する調査の先行研究（Brewer & Selden, 2000; De Graaf et al., 2016; O'Connor, 2017; Rayner et al., 2011; Salminen & Mäntysalo, 2013; Selden et al., 1999; 林ほか, 2000）で用いられた100以上の項目を参考に絞り込みを行い、一部独自の設問項目を設定した。その際にまずは英語で各項目記述を作成し、それを和訳したものを用いた。各サブカテゴリについての概説と利用した項目は次のものである。なお、それぞれの項目に No をつけているが、項目の順番で回答者の判断に影響が出ないようにランダム化させた。

それぞれのカテゴリ、サブカテゴリの概説と項目に示された言説は次のとおりである。

A. 人間感情と人間関係をめぐる公共倫理

① 公益へのコミットメント（CPI）

このサブカテゴリは、社会貢献や社会のために何らかの形でイニシアティヴをとるものを示す項目となる。そのコミットメントが自分自身にとってネガティブなものであれポジティブなものであれ、それぞれイニシアティヴになるものと考ええる。

No	Sub	項目
14	CPI	最も意欲を掻き立てられるのは、他者への思いやりや公益に貢献することである。
21	CPI	自分たちの地域の活動への参加は当然のことである。
27	CPI	人は社会から得た以上のものを社会に還元するべきだ。
28	CPI	社会全体への積極的に貢献することが、私のモチベーションを高めてくれる。
30	CPI	個人的な成果よりも、社会に変化をもたらすことの方が自分にとって有意義なことである。
5	CPI	私は、自分の行動を通じて社会に貢献したい

② おもいやり（COM）

このサブカテゴリは、社会的弱者や困っている人のことを考え、自身の意思

で手を差し伸べる意思を示す、または行動をとる内容である。社会的弱者や困窮者の存在を前提としている、あるいは自分自身の意思での福祉への貢献意識というもので、①や③の価値意識は異なるものとなる。

No	Sub	項目
35	COM	私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。
19	COM	困っている人を見ると、自分の気持ちを抑えることができない。
7	COM	私は、自身を困っている人を支えようとする人間だと思っている。
11	COM	恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。
30	COM	一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。
8	COM	社会全体に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。

③ 自己犠牲 (SS)

このサブカテゴリは、社会的または個人的な善とみなされるもののために、自己犠牲の行動をあえてとること、または自ら積極的に社会善、個人的な善とみなされるものに従事することである。これは上記の2つとは異なり、自分にとってある程度の負担のかかること、または好ましくない結果が起こりうることを事前に認識した上での行動である。

No	Sub	項目
32	SS	私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。
3	SS	私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。
22	SS	私は、世の中をより公正な場所にするために、自分の持てるエネルギーの全てを費やすことをいとわない。
16	SS	私にとっては、自分の安定した生活よりも、社会への貢献の方が重要である。

26	SS	たとえ自分の利益が損なわれても、社会全体のためになることをしたいと思う。
24	SS	たとえ馬鹿にされようとも、他者の権利のために行動することを恐れない。

B. ガバナンスをめぐる公共倫理

④ 効率性（EFF）

このサブカテゴリは、自分自身と所属する組織の利益のために効率を優先する価値観であり、それを行っていくことが自身や社会的な善に繋がるといものである。

No	Sub	項目
17	EFF	私は、最小限の手段で最大の成果を上げるために行動することに重きを置いている。
18	EFF	私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。
20	EFF	私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。
33	EFF	民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。
13	EFF	私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。 私は、私に託された資源を最も効率的に活用する責任を負っている。
8	EFF	効率は、公平や公正よりも重要である。

No13に関して本来項目に入れるつもりであった記述は下に示した記述であったが、調査実施の際に No20に割り振られた項目と同じ記述ものが入ってしまった。これは調査票設計段階での著者による入力ミスに起因するものである。これによって適切な分析に支障をきたすものになってしまった。調査実施前により正確に確認すべきであり大きな反省点である。

⑤ 公平性（FAR）

このサブカテゴリは社会的公平・公正を美徳として考え、行動するものである。また、これらの項目からは、より誠実な自分であろうとし、それこそが公

共的な倫理にかなう姿勢であると捉えるものである。

No	Sub	項目
10	FAR	私はすべての案件を平等に取り扱う。
23	FAR	私にとって、最も重要な目標は「公平性」だ。
35	FAR	同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。
31	FAR	社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである
1	FAR	公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。
4	FAR	人々は、社会をより公平にするために行動すべきである

⑥ コンプライアンス（CMP）

このサブカテゴリは法令遵守、ひいては組織の安定的機能という規範意識を重視するもので、そのための組織における規律の維持に関わるものである。

No	Sub	項目
9	CMP	ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。
12	CMP	法と正義は、最も重要な倫理原則である。
36	CMP	私は、説明責任を果たすため、場合によっては市民を含む関係者に行動を正当化し、説明することを厭わない。
15	CMP	組織にどんな損失があろうとも、私たちは常に正直であるべきだ。
25	CMP	どんな結果になろうとも、違法行為を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）の責任である。
2	CMP	どんな結果になろうとも、非倫理的な行動を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）にとって重要である。

（3）P-サンプル

Q方法論において調査参加者はP-setないし、P-sampleと呼ぶが、ここではP-サンプルと呼ぶことにする。ターゲットとしたのは日本の行政学者・政治学者で大学院生も含むものとした。これは平素から授業等で直接ではないにせ

よ公共倫理に関することを教えている、あるいは研究している専門家グループである。データの取得には任意かつデータは研究利用のみの利用であることを明記し、回答途中でも辞めることのできることを示した同意書に同意した者に参加してもらった。P-サンプルの集め方としては、行政共同研究会の幹事の協力を得て、同メーリングリストを利用して研究会メンバー及び、知り合いの行政学者や政治学者の紹介の依頼をしたことに加え、筆者の個人的な繋がりを有する行政学者・政治学者に個別に回答依頼と紹介を依頼した。結果、35のQ分類の回答と25の自由記述への回答を得ることができた。主なP-サンプルの全体の属性は次のとおりである。

表2 P-sample 属性

年齢層	人
20s	6
30s	11
40s	13
50s	3
60s	1
70over	1
専門性	
行政学者	15
政治学者	17
どちらでもない	2
民間経験	
任期の定め無しでの勤務経験有	7
任期付きでの勤務経験有	2
アルバイト経験有	20
全くない	6

（4）調査の実施

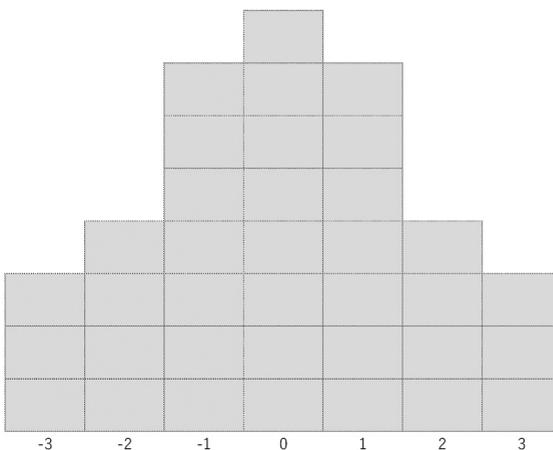
調査はオンラインで行われた。P-sample は Q Method Software という Q 方法論調査のオンライン入力サイトに入り、同意書について確認し、同意した者が調査に参加した。調査参加者は上記の属性について入力後、二段階の分類を行った。先にランダムで並べられた36の項目を解答者の認識する重要度に応じて「サムアップ」「?」「サムダウン」サムアップは重要度が高いもの、?は中立的なもの、サムダウンは重要度が低いものという指示を示し、3段階に分類してもらった。次に先に3段階に振り分けたそれぞれの項目を図1の配置白図に配置してもらった。なおここまでの作業をQ分類（Q-sort）と呼ぶ。これに

よって調査の回答はほぼ強制的に各人の認識に基づいて優先度をつけて配置されることになる。それによって P-sample が記述を読み、考え、内面にある思考を一定の基準をもとに優先順位をつけて配置したものを数的データとして得ることができるようになる。なお、一つの特性に対して多くの人を調査した際に多くの場合、正規分布が得られるのと同じように、多くの特性を調査するのであれば正規分布を示すことになるだろうと Burt と Stephenson (1939) は述べており、Q分類を行うための配置マトリックスとしては、正規分布に近い形（準正規分布）にすること Q方法論において標準的となっている（Van Exel and De Graaf, 2005）。今日ではそれを基本としない自由配置などの研究はあまり見られない。それを踏まえ、Pセットに以下の図の配置マトリックスに各項目を当てはめてもらい、そこから分析に用いる数量データを得た。

Q分類終了後に、最も優先度の高い／低い項目となった+3と-3に配置した項目について、どのようにその項目を解釈したか、なぜそこに配置したかについて自由記述欄を設け、記述してもらった。なお、本調査においては、+3の自由記述項目が一つ足りなく表示されてしまったことと、-3の自由記述項目を間違えて+3と表記してしまっていたというミスがあった。調査開始後、

そのようなミス・バグがあるということを周知したが、前者の回答はなかなか得られなかったものの、後者は概ね質問記述のミスに気が付いて、回答していただいた。前者の若干の不足はあるものの、2項目までは記述して頂けたことから十分に解釈に活用できるものと判断し、主成分の解釈に

表3 配置マトリックス



利用している。

(5) 分析方法

分析には統計解析ソフト R のパッケージである `qmethod` を利用した。Q 方法論のレビュー論文で算出された Q 方法論文の分析方法として最もよく使われている主成分分析 (Principle Component Analyses, 以下 PCA) を用い、よく利用される方法である回転はバリマックスを利用した (Dieteren et al., 2023)。不完全ではあるものの自由記述のコメントを付してもらったことにより Q 分類で得られた定量データと自由記述による定性データを用いた混合調査として成立させ、Q 方法論の重要な側面である分析結果の解釈を豊富なものとするようにした。そして、スクリー・プロット (Watts & Stenner, 2012)、解釈のしやすさ、相互相関等を考慮して主成分を 4 つとして抽出した。

4. 分析結果と解釈

(1) 分析結果の概要

まずは全体の結果として、各項目の z スコアを以下の表で示す。なお、z スコアをもとにそれぞれの主成分が理想化した配列として +3 ~ -3 まで割り振った因子配置 (Factor Score あるいは Factor Array と呼ぶ) は付録 C に全体の z スコアは付録 B に掲載している。Q 方法論では解釈において因子配置を用いることが多いが、本稿では z スコアを解釈に用いる。z スコアは、各項目に対して類似回答者が与えたスコアの加重平均値である。z スコアは、各視点が各項目に対してどの程度強く関与しているかをより正確に示すものである。また、項目がコンセンサスであるかどうか (主成分間で z スコアが同程度であるかどうか)、項目が主成分間で統計的に有意に異なるものであるかどうか (統計的に有意に差があるものを *Distinguishes* と呼ぶ) を判断するためにも使われる (Zabala et al., 2018)。

また z スコアは教育現場で用いられることの多い偏差値のもとになる数値で、偏差値であれば、平均値が 50 で z スコアが 1 であれば偏差値は 60 となり、

2であれば70となる。逆に-1であれば40となる。そのため、本稿では、情報量の多いzスコアを解釈に用いる。

なお、先にも示したが、今回の調査においては調査設計者である著者の入力ミスにより No20と No13が同じ内容の項目になってしまった。これによって適切な分析と解釈に支障をきたすものとなってしまった。大いに反省しているところである。

しかしながら、得られたデータは全体としてはある程度解釈可能なものになっているため、データ全体を失敗データとみなして棄却するのではなく、この部分に関しては間違いがあるものと含みみて各主成分を解釈していくことにする。

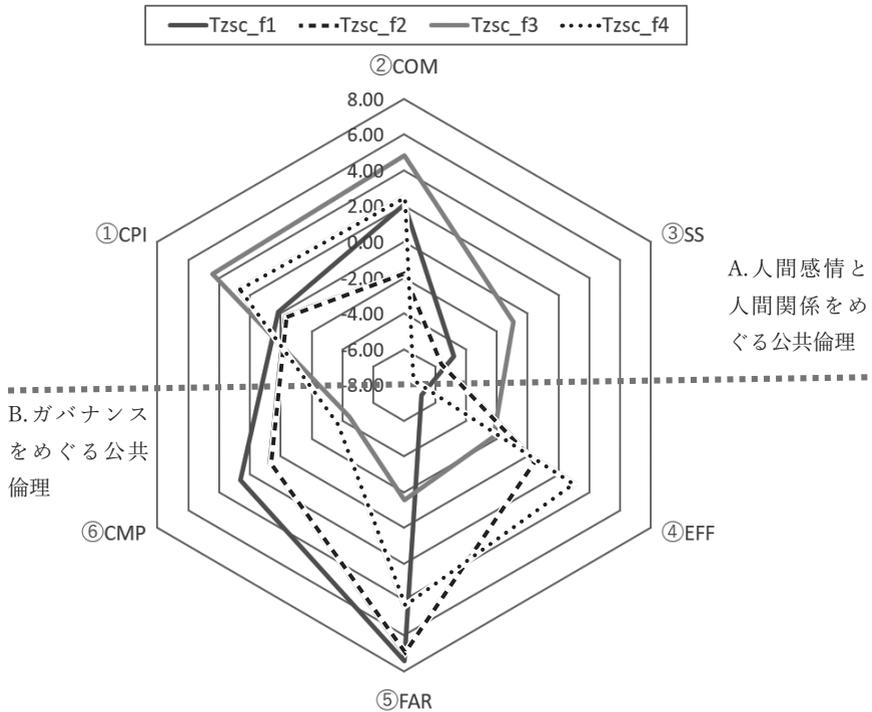
次に各カテゴリのサブカテゴリ毎にzスコアを合計したものが表4である。そして、この合計スコアをレーダーチャート式のグラフで示したものが図2である。これをもとに、各主成分のカテゴリ A, B 及びサブカテゴリの偏在傾向が確認できる。ただし、④効率性 (EFF) に同じ項目が入ってしまったことで、④だけでなく、全体の結果が歪められていることは記しておく必要がある。一方で項目一つの全体への影響も限定的であると考えられるため、解釈するにあたっては十分参考になるものと考えている。

なお、各項目の中で「16. 私にとっては、自分の安定した生活よりも、社会への貢献の方が重要である。」は主成分間でzスコアが同程度であるコンセン

表4 各サブカテゴリの合計値

カテゴリ	サブカテゴリ	Tzsc_f1	Tzsc_f2	Tzsc_f3	Tzsc_f4
A. 人間感情と人間関係をめぐる公共倫理	①公益へのコミットメント (CPI)	0.18	-0.32	4.44	2.72
	②思いやり (COM)	2.08	-1.72	4.85	2.49
	③自己犠牲 (SS)	-4.77	-5.63	-0.91	-7.39
B. ガバナンスをめぐる公共倫理	④効率性 (EFF)	-6.91	0.50	-2.22	3.04
	⑤公平性 (FAR)	7.45	6.97	-1.54	4.34
	⑥コンプライアンス (CMP)	2.62	0.68	-4.46	-3.66

表5 各サブカテゴリの合計値のレーダーチャートグラフ



サスが示された。

以下、各主成分について解釈していく。

(2) 第一主成分：公正“有私”の社会正義主義者

第一主成分でzスコアが1を超えた項目は以下の項目であった。

F1>1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
35. 同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。	FAR	2.01	1.47	0.96	1.47
1. 公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。	FAR	1.65	1.99	-0.70	0.80

31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	1.28	1.55	0.15	1.29
11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。	COM	1.06	-0.40	0.55	1.04
23. 私にとって、最も重要な目標は「公平性」だ。	FAR	1.06	0.73	-1.56	0.17
12. 法と正義は、最も重要な倫理原則である。	CMP	1.01	0.03	-0.83	-0.53

第一主成分でzスコアが-1を下回った項目は以下の項目であった。

F1 > -1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.14	1.77	1.12	1.44
20. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.18	1.99	1.41	0.77
27. 人は社会から得た以上のものを社会に還元するべきだ。	CPI	-1.19	0.20	0.01	0.76
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-1.58	-1.40	-1.47	1.45
32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-1.58	-1.11	-1.33	-1.66
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-1.78	-1.68	-1.48	-0.78
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-1.97	-1.26	0.43	-1.26

第一主成分で統計的有意差が現れ、他の主成分のzスコアと比較して最も高いあるいは低いといった特徴が現れた項目は以下の項目であった。

F1 統計的有意差が現れた特徴的項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
10. 私はすべての案件を平等に取り扱う。	FAR	0.84	0.24	-0.28	-0.28
24. たとえ馬鹿にされようとも、他者の権利のために行動することを恐れない。	SS	0.47	-0.24	-0.16	-1.49

第一主成分はまず、公平性（FAR）の項目が高く、効率性の項目が著しく低いという特徴がある。これには同じ項目が入ってしまった13、20の項目が同様に-1より低いところで現れているのもその理由一つではある。とはいえ、中でも35の同一労働同一賃金の項目について、他の項目でも高く現れている項目ではあるが、zスコアが2を超えるという非常に高い値となっているのが特徴的である。また、統計的有意差が現れた特徴的項目の中で項目10が、他の主成分に比して高く現れているのも特徴的である。なお、公平性（FAR）項目は-1以下の項目には見られない。自由記述からは次のような記述があった⁽²⁾。

・(35)「仕事内容以外の属性による待遇の平等一般については、細かいことを考えると例外がありうるようにも思われた。しかし、選択肢には「性別によらず」とあったため、男女の待遇格差についての選択肢と捉え、不平等であってよいはずがないと考えた。」

・(35)「性別だけでなく、様々な多様性を踏まえ、同一労働・同一賃金は、公共への人々の信頼をつなぎとめる大前提である。「同一労働・同一賃金にも例外がある」という物言いは、権力や富を持つアクターが既得権を維持・拡大するための方便にすぎない。少なくとも日本においては、当然、教育・研究職も含めて。「同一労働・同一賃金に例外なし」と言うべきアクターは、たいてい脆弱で発言する力や場も有さない、あるいは、そのような認識さえできないように、権力・富を持つ側によって思い込まされている。」

・(1)「この言説(1)は価値の間の優劣を述べたものであるが、価値の間の衝突がなければ比較も不要なので、公平性ないし公正性と効率性が衝突す

(2) 自由記述に関しては誤字脱字、ひらがな表記等は修正せずに掲載している。

際にどちらを優先するかに関するものと理解した。私はそのような価値の衝突に際して、前者を優先することが個人的信念としても、社会にとっても重要であるという強い直観を持っている。公平性・公正性は全ての人を（何らかの仕方）で）等しく扱うことを求める。これに対して、効率性はそのような要請を含まず一部の人を犠牲にすることを許容・推奨しうる点で問題がある。効率性が公平性・公正性に優先するという事態はあるべきでない。以上から、最も疑問の余地なく重要な言説であると感じた。」

・(1) 「『効率的に公平性や公正性を実現』などという物言いは、権力や富を持つアクターが既得権を維持・拡大するための方便にすぎない。少なくとも日本においては、『効率性を犠牲にしてでも、公平性や公正性を実現』と言うべきアクターは、たいてい脆弱で発言する力や場も有さない、あるいは、そのような認識さえできないように、権力・富を持つ側によって思い込まされている。」

・(31) 「制度的に埋め込まれたバイアスや不平等を常に点検し、気づけば声をあげて、変えていくのが重要である。」

・(31) 「正当な理由が無く、当該事柄に従い扱いを変えることは不当な差別に当たるため。」

また、コンプライアンス（CMP）に関しては1を超えた項目は「12. 法と正義は、最も重要な倫理原則である。」だけではあるが、マイナスで現れた項目が少なく、全主成分の中で最も合計値が高くなっている。唯一マイナスが現れた項目は「9. ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。」であった。自由記述からは次のような記述があった。

・(12) 「法と正義、価値を常に確認しつつ、自身の行動を内省することが重要である。その価値からして、異論があることを求められれば、組織と交渉のうえ、変えていきたい。」

・(12) 「社会正義を実現する手段として法制度は近代国家において最も基本的な必要な公共財であるから。」

思いやり（COM）に関しては、他の主成分と比較して必ずしも合計値が高

いわけでは無いが、1を超えた項目に「11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。」が入っており、またマイナスが現れたのは「19. 困っている人を見ると、自分の気持ちを抑えることができない。」だけであった。ここからは、どちらかと言えば、個人的な困難よりも集団的な困難への関心が高いことがわかる。

公益へのコミットメント (CPI) や自己犠牲 (SS) といった、自らの行動を伴う項目が主体のものについては、zスコアの合計値としてはあまり特徴的ではないように見えるが、幾つかの個別項目で特徴が出ている。特に自己犠牲に関しては、「3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。」は-1.97と非常に低く、「32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。」に関してもかなり低い値が現れている。これらの自由記述では次のものがあつた。

・(3)「社会貢献も重要ですが、まずは自身の心身の健康の保持を重要と考えます。それであつてこそ、持続的安定的に社会にコミットメントすることが可能である。社会貢献のために、自身の人生を崩壊させるべきではないし、それを他人に求めてはならない。」

・(3)「公務員であつても社会のために大きな犠牲を払う覚悟をもつ必要はないと考えている。たしかに高い道徳観を求めたい気持ちはあるが、それ以上に、労働者としての諸々の権利を前提として働いてほしいと思っている。」

・(32)「私は誰かを助けるためにどんな個人的なリスクを覆う人間ではない。」

・(32)「他の-3の選択肢と同様、仕事のために大きなリスクを負うことは、できるだけ避けてほしいと思っている。特に、該当選択肢については、(回答者の考えでは)不適切な性格を肯定的に評価しているように見受けられ、非常に心配をかきたてられる。」

公益へのコミットメント (CPI) の27の項目については次の記述があつた。

・(27)「個人の行動指針であつてもよいが、「べき」として他人や組織に求めてはならない。」

これらからは個人的にかかる過度な負担や個人にのしかかる社会規範に対する拒否的な発想が見受けられると言えるだろう。

最後に最もマイナスが大きいという意味で特徴的なサブカテゴリが効率性（EFF）であった。効率性（EFF）項目に関しては全てマイナスのzスコアとなっており、-1を超えたものも多かった。各項目のスコアは既に示されているので、自由記述でどのように語られたのかを見てみることにする。

・(8)「公平や公正より効率が重要視される社会は、過度の競争社会をもたらす。しかも、その競争ルール自体を権力・富を持つ側が支配する。結果、格差社会の階層固定をもたらし、いわゆる上級（国民）階級は非効率化し、その非効率性のツケを下層大衆が過酷な労働で埋め合わせるはめになる。行きつく先は、社会全体の衰退である。どこか東洋の島国の「失われた30年」のように。」

・(8)「効率性の追求は個別具体的なケースや一人ひとりへの共感を失わせるものであり、有害であると考えます。」

・(18)「18について。財政の重要性は決して否定しないが、それを「良い行い」よりも重要とするのは不合理である。財政は「良い行い」のための手段であるから、前者は後者を促進する限りでのみ重要となる。したがって-3とした。」

・(18)「人間は自分らしく生きることが大事だと思っているが、その中で自分の判断で良い行い（少なくとも悪い行動をできるだけしない）ことが前提になるからである。」

・(18)「♪Money, Money, Money, Must be funny. In the richman's world ! by ABBA」

効率性（EFF）については負の側面である社会格差の増大を否定的に見ている。また、財政という言葉に惑わされずに財政の前提にあるものを見据えている回答内容であるのは専門家調査であるからではないかと考えられる。

一方で同じ記述内容になってしまった、13、20は他の主成分では最も高い値が出たものもあるが、この主成分ではマイナスであったのは興味深い。-3に

配置したコメントは見られなかったが、事務処理も含め、そもそも効率的に物事を進めること自体を良しとする価値意識に関して疑問を持っているのかもしれない。これは行政学の文脈でいえば、アメリカ行政学の創始者とされる Wilson（1887）や Goodnow（1900）の政治行政分離論には効率性を善とする価値意識が埋め込まれているとして批判し、それによるアイデンティティの危機を示し、新行政学運動を展開した Waldo（1968;1975）の発想に近いのかもしれない。

この主成分はこの主成分は公正“有私”の社会正義主義者と名付けたが、一般的な熟語にある公正無私とは大きく異なるのである。自身も社会の構成員の一人として捉え、自身の幸せややっていきたいことを大切にし、自己犠牲に関することが社会全体の解決策とはあまり考えず、効率性への本質的な疑心観を持つ。加えて、自身への押し付けとなるような社会規範を好まない。しかしながら、社会正義の実現への強い希望には満ち溢れている人である。

（3）第二主成分：個々人の尽力の集合による社会善志向者

第二主成分でzスコアが1を超えた項目は以下の項目であった。

F2>1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
20. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.18	1.99	1.41	0.77
1. 公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。	FAR	1.65	1.99	-0.70	0.80
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.14	1.77	1.12	1.44
31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	1.28	1.55	0.15	1.29
35. 同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。	FAR	2.01	1.47	0.96	1.47

29. 一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.15	1.20	1.13	-0.44
4. 人々は、社会をより公平にするために行動すべきである	FAR	0.60	1.00	-0.12	0.91

第二主成分でzスコアが-1を下回った項目は以下の項目であった。

F2>-1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-1.58	-1.11	-1.33	-1.66
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-1.97	-1.26	0.43	-1.26
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-1.58	-1.40	-1.47	1.45
26. たとえ自分の利益が損なわれても、社会全体のためになることをしたいと思う。	SS	-0.36	-1.44	1.15	-0.52
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-1.78	-1.68	-1.48	-0.78

第二主成分で統計的有意差が現れ、他の主成分のzスコアと比較して最も高いあるいは低いといった特徴が現れた項目は以下の項目であった。

F2 統計的有意差が現れた特徴的項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。	COM	1.06	-0.40	0.55	1.04
6. 私は、自身を困っている人を支えようとする人間だと思っている。	COM	0.30	-0.69	1.17	0.33
34. 私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。	COM	0.50	-0.80	0.29	1.86

この主成分は第一主成分と同様に公平性 (FAR) が高いが、他の因子で合計値がプラスで出ている思いやり (COM) がマイナスを示していて低く、公益へのコミットメント (CPI) も他の三因子と比べて合計が最も低く現れているのが大きな特徴といえる。

個別のサブカテゴリでみていくと、公平性 (FAR) については1以上で4項目現れており、また残りの2項目もプラスのzスコアである。自由記述では次のようなものがあった。

- ・(1) 「公平性と公正性を効率性よりも重要すること。公共的な事業を行う主体には、公平性や公正性がより求められるべきと考える。」
- ・(1) 「社会にとって、効率性よりも、公平性や公正性が欠けているほうが、多くの社会問題が生まれる。」
- ・(31) 「基本的人権の問題と理解した。市民社会における公理と考えている。」
- ・(35) 「男女平等。仕事に対して支払う給料であれば、なぜ性別が関わってくるのかよくわからない。仕事の成果によって給料が異なる、のであれば納得できる」。

公平性 (FAR) では第一主成分と近いzスコアの合計値が出ているが、それと比較すると同一労働同一賃金の項目の35が高くは出ているが第一主成分ほど高くなく、公平性に対するより一般的な価値認識の重要性を示す項目が高く出ているのという違いがある。

次に他の主成分と比較して最も低い値が合計値が出ている思いやり (COM) をみると、むしろ、1以上の項目に29が現れておりこの横目は他の主成分の中で最も高く現れているものの、それ以外の項目がすべてマイナスの値が現れている。マイナスの値とはいえ、-1以下の大きなマイナスの値には現れず、統計的有意差が現れた特徴的な項目で示された3項目が全て思いやり (COM) 項目で、他の因子と比較して低い値が出ている他、7、19の項目に関しても統計的有意差が出なかったがzスコアは他の因子と比較して最も低いものとして現れた。自由記述からも幾つかあるので以下に示す。

・(34) 「『個人的に知らない人』となると際限がなさすぎて絶望的な感情になることが予想されるので、自分の能力に鑑みて意識的に想像する範囲を制限しているの、価値を低く置いている。」

・(34) 「さすがにそこまで高い倫理性は持ち合わせていないし、まずは、身の回りの世話に尽力すべきだと思うから。」

・(6) 「まだそんな偉大な人間にはなっていない。」

・(19) 「気持ちが抑えられないほどではない。」

ここからは、「まずは、身の回りの世話に尽力すべき」や「自分の能力に鑑みて」という言葉があるように、現状で自分の周りのことで手いっぱいであるので、他者のことまではそれほど強く考えられない、といったような価値認識が見えてくる。

公益へのコミットメント（CPI）をみると、他の主成分と比較して合計値が最も低く現れているが、合計値としてはプラスにはなっている。一方で+1以上の項目や-1以下になるような低い項目は無く、+3か-3に配置した自由記入の情報もない。全体的にあまり強い価値認識を有していないというのがこの主成分の公益へのコミットメント（CPI）に対する考え方であることがわかる。

コンプライアンス（CMP）に関しては他の主成分と比較するとやや高い値がzスコアの合計からは見て取れるが、+1、-1の項目に現れず、統計的有意差が示された特徴的な項目でも出てこない。他のサブカテゴリ項目に比べてあまり関心のある問題ではないことと認識していることがわかる。

自己犠牲（SS）に関しては第一主成分ほどではないが、低い項目が多いのが目立ち4つの主成分の中でzスコアの合計値が最も低く現れた。-1以下の項目としても3項目が挙がっており、残りの3項目もzスコアはマイナスの値が現れている。-1以下の項目の自由記述では次のようなものがある。

・(26) 「たとえ自分の利益が損なわれても、社会や組織の利益を優先できるか。そういうマインドがあることは結構なのだが、自分自身が満たされていない中で、社会や組織のことなど考える余裕は持ちえないのではないか？」

・(26)「近代的な個への尊重の問題と理解した。集団的な規範よりも個人における規範を大事にしているから。」

・(26)「確かに、より良い社会を作っていくことは大切ではあるが、そのために過剰な自己犠牲を要求することは、全体主義的であるし、非現実的だと思うから。」

・(3)「社会的正義と経済的利益との比較考量の問題と捉えた。経済的効率性は重要であるが、それでも社会的正義よりは勝ちが劣ると考えているから。」

・(32)「近代的な意味での個の確立と理解した。集団のために個人が犠牲になることを近代的な規範から考えると誤っていると考えるから。」

・(32)「各人の倫理的成熟度合いに委ねられると思うし、他者に英雄的行為を求めすぎることには難しさを感じている。」

・(32)「社会的正義と経済的利益との比較考量の問題と捉えた。経済的効率性は重要であるが、それでも社会的正義よりは勝ちが劣ると考えているから。」

ここからは個人の行動や利益よりも集団的・社会的規範が優先されることへの拒否意識、ないし消極性があることがわかる。また、「英雄的行為を求めすぎることには難しさを感じている。」という記述もあるように、やや大局的に見て現代的な価値認識からは難しいのではないかなという理解をしているのであろうことがわかる。

最後に効率性（EFF）であるが、サブカテゴリ全体として、項目の入力ミスにより2つ同じ内容の項目となってしまった13、20の影響が強く出てしまった。13、20の項目が1以上の項目として非常に高い値が現れたことから、合計値もプラス側になってしまった。それを含みおいたものとして読んでいただきたい。ともあれ、項目13、20は非常に高い値が出ているためその自由記述を確認する。

・(13)「各自が自身の仕事に精力的に取り組むことによって、個人と社会全体が向上することが望ましいと考えているため、仕事に重きを置いている

(実際、自分自身が常に実践できているとは思わないが。)

・(13)「自分の能力によって社会にすぐ貢献できることは迅速性と正確性だから。」

・(20)「個人的なポリシーの問題だと理解した。常日頃からそのように心がけているから。」

ここからは自分自身の能力発揮ができる部分やポリシーとしてそのようにしたいと考えていることからこれを高く配置したのであろうと考えられる。また、個々人の能力発揮が社会全体の利益や貢献に繋がるという因果関係の思考で捉えているのであろうこともわかる。

一方で効率性 (EFF) は低い項目としても現れている。それは第一主成分で特に低かった二項目と一致する項目 8 と 18 である。これらの自由記述としては次のものがある。

・(8)「自分に割り当てられた仕事の範囲では効率性を求めることは重要だが、社会としては他に優先すべき価値があり、それが公平や公正だと思ったから。」

・(8)「公平および構成は目標と適正手続きに関する価値であり、そこをしっかりと設定したうえで、効率性を議論すべきであると考えため。」

・(18)「財政とはどの地理的／時間的範囲の財政を指すのかは必ずしも明らかではないが、少なくとも短期的には均衡財政を超える価値のあるものがあると考えているから。」

公平性や公正性にと効率性の関係については、公平性や公正性の価値と効率性の価値を分離して考えようとしているのが 2 名の記述内容からわかる。中でも 1 名は「自分に割り当てられた仕事の範囲では効率性を求めることは重要」と述べており、自己の追及目標としての効率性と社会全体の目標としての効率性を大きく分けているのがわかる。18 の記述からは Keynes (1937) 的なマクロ経済の発想が根底にあるものと考えられる。

総じてこの主成分においては、社会的、集団的規範によって個人の行動に対して影響を受けることを好ましく思わない一方で、公平や公正性に対する意識

が高く、社会において個人的な努力の集合によってより良い社会に近づいていくというような考え方であると考えられる。そこでこの第二主成分は個々人の尽力の集合による社会善志向者と名付けることとした。

(4) 第三主成分：共感力高き者 (Empathist)

第三主成分でzスコアが1を超えた項目は以下の項目であった。

F3>1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
5. 私は、自分の行動を通じて社会に貢献したい	CPI	0.98	0.58	1.70	1.14
20. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.18	1.99	1.41	0.77
28. 社会全体への積極的に貢献することが、私のモチベーションを高めてくれる。	CPI	0.47	0.09	1.32	0.78
7. 社会全体に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.58	-0.22	1.32	-0.10
6. 私は、自身を困っている人を支えようとする人間だと思っている。	COM	0.30	-0.69	1.17	0.33
26. たとえ自分の利益が損なわれても、社会全体のためになることをしたいと思う。	SS	-0.36	-1.44	1.15	-0.52
29. 一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.15	1.20	1.13	-0.44
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.14	1.77	1.12	1.44
14. 最も意欲を掻き立てられるのは、他者への思いやりや公益に貢献することである。	CPI	-0.29	-0.75	1.00	-0.30

第三主成分でzスコアが-1を下回った項目は以下の項目であった。

F3>-1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
9. ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。	CMP	-0.32	-0.71	-1.25	-0.59
32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-1.58	-1.11	-1.33	-1.66
15. 組織にどんな損失があろうとも、私たちは常に正直であるべきだ。	CMP	0.23	0.08	-1.46	-0.17
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-1.58	-1.40	-1.47	1.45
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-1.78	-1.68	-1.48	-0.78
33. 民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。	EFF	-0.55	-0.73	-1.48	0.03
23. 私にとって、最も重要な目標は「公平性」だ。	FAR	1.06	0.73	-1.56	0.17
9. ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。	CMP	-0.32	-0.71	-1.25	-0.59

第三主成分で統計的有意差が現れ、他の主成分のzスコアと比較して最も高いあるいは低いといった特徴が現れた項目は以下の項目であった。

F3 統計的有意差が現れた特徴的項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-1.97	-1.26	0.43	-1.26
19. 困っている人を見ると、自分の気持ちを抑えることができない。	COM	-0.52	-0.81	0.40	-0.20
31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	1.28	1.55	0.15	1.29

4. 人々は、社会をより公平にするために行動すべきである	FAR	0.60	1.00	-0.12	0.91
1. 公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。	FAR	1.65	1.99	-0.70	0.80

第三主成分はカテゴリ A に該当する公益へのコミットメント (CPI)、思いやり (COM)、自己犠牲 (SS) が他の主成分と比較してそれぞれ最も高い z スコアの合計が現れた。これらの項目は主に PSM 関係項目であることから、まずは相対的に PSM が高い群であるということがわかる。次に各サブカテゴリを確認していくこととする)。

公益へのコミットメント (CPI) については 1 以上の項目に項目 5, 28, 14 の 3 つが現れており、また、1 以上に現れなかったものでも、項目 27 以外の 21, 30 はそれぞれ統計的に有意な差は出ていないものの、他の主成分と比較して最も高い z スコアが示されている。そのため、これに関して非常に強い意識があることがみてとれる。自由記述からは次のような回答があった。

- ・(5) 「社会から様々な支援をしてもらって今現在の自分があると思うので、社会に還元したいと思う。」
- ・(5) 「何かを成し遂げたという感覚は他者を助ける時に感じるものでしょう。」
- ・(14) 「他者への貢献が認知されるから次の行動において他者からの支援も期待できるのであり、他者への貢献があるから、その対価として資源の獲得ができるのでしょ。」
- ・(14) 「日々生活をし、自分自身や家族の生活以外に自分の持てる能力やスキルを用いる社会的活動が労働であり、労働をすることは自分の能力やスキル等が求められているためであり、それをコストとして提供するものであると考えるため。」

ここからは「社会への恩返し」的な認識と「達成感」の認識の源泉となること、労働も含めて他者への貢献と考え、その貢献と対価の関係で社会が成り立つという見方をしていることがわかる。

思いやり（COM）に関しても1以上の項目が3つ挙がっており、また統計的有意差を持ち最も高いzスコアの値が現れているものも1つあり、zスコアの合計値は相対的に最も大きくなっている。1以上を示したものの自由記述を確認すると以下のものがあった。

・(6)「自分が困っている場合も、他の人から支えてくれてほしいために、自分はそのような人間になりたくて、頑張っています。」

・(29)「一人ひとりの人生が豊かでなければ、社会に貢献するということは余裕がなくてできないし、欺瞞になるから。」

項目6の記述は、対価性という言葉いすぎかもしれないが、自分自身がそうなることで、困っている人を助け合える社会を目指しているものと理解できる。29の記述からは一人一人の人生の豊かさが社会貢献の前提であると考えていることがわかる。

次に自己犠牲（SS）について確認する。これはzスコア合計値ではマイナスではあるが、他の主成分ではマイナスが大きいものに対して、第三主成分では合計値が1に満たないと比較的小さな値が現れている。1以上の項目の中にも他の項目で全く現れなかった中で、唯一項目26が現れている。その自由記述を確認すると次のものがある。

・(26)「公共的空間を共有する者として、自分の持てる能力やスキル等を必要に応じて、社会的課題の解決に用いることが重要であると考えたため。」

ここからは社会の中での責任意識を高く有していることがわかる。

また、統計的有意差が出ているもので、他の主成分では全て-1を超えるものであるのに対してプラスの値が現れている項目3がある。他の項目はマイナスが出ているものの、他の主成分と比較して最も高い値か2番目に高い値となっており、総じて自己犠牲に対するマイナス認識が低い。

なお、-1以下が現れた項目32があるが、自由記述では次のものがあった。

・(32)「与えられた仕事を効率的にこなすことは差し当たり好ましいのだろうと感じた。また、社会への貢献についても重視している一方で、自己犠牲については中立かそれに近い立場なので、そうしたカードを置いた。」

・(32) 「設問のような高潔な人物ではないため」

前者の回答者は-3に配置した項目ではあるが「自己犠牲については中立的に近い立場」と記述している。まさしく全体の値としてもそのように現れており、この主成分そのような立場のものであると言えよう。

次に、カテゴリBのサブカテゴリに目を向けると、全てのサブカテゴリで相対的に低いというのが特徴である。効率性（EFF）から確認すると、同じ内容となってしまった2つの項目13、20は1以上のzスコアとして現れている。自由記入はで次のようなものがある。

・(13) 「個人の仕事のありかたに関する質問であると理解し、自身が心掛けていることであるため選択しました。」

・(13) 「差し当たり、自分の仕事をできる限り効率的に行うことが社会にとって望ましいことだと思うため。」

・(20) 「仕事を効率的にすることが多くの人々の効用を高めうるため」

これについては後2者が類似したことを示しているように、一人一人の効率的な作業によって社会的な望ましさが高まるという観点で重要と捉えて+3に配置したものとわかる。一方で-1以下のものが3項目ありそれらの自由記述を確認すると次のようなものがある。

・(33) 「民間の経営スタイルを取り入れることは重要であるが、公共部門はそもそも「市場の失敗」に対応するためのものであるため、公共部門が専ら管轄すべき領域があると考えため。」

・(33) 「行政運営におけるNPM導入の是非と理解し、常に適切となるとは考えなかったため、置きました。」

・(8) 「効率性も重要ですが、公平と公正もすごく重要な価値だと思います。効率がより重要だと言えないです。」

・(8) 「仕事の進め方の基準として、効率性の方が公正さよりも重要であるかという点と理解し、公正さの方が重要であると考えため、選択しました。」

・(18) 「良い行いが望ましいため」

効率性（EFF）の中では「33. 民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。」が非常に低く出ているのが相対的にも特徴的である。自由記述の内容を鑑みても90年代から00年代のNPMの潮流に反省的であると言えるだろう。

また、他の主成分では合計値が大きくプラスになっている公平性（FAR）がマイナスになっていることもこの因子の特徴である。特に項目23に関しては最もzスコアが低いものとして現れている。これに関する自由記述は1つだけだが次のものである。

・(23) 「『公平性』は確かに重要であるが、最も重要とはいえないと感じた。ある公平性と別の公平性が対立した場合にどうするのかも不明瞭であるから重要性は低い。」

近年データサイエンスではアルゴリズムの中での複数の公平性の基準によって両立しない状態となり決定ができない問題が指摘されている（Corbett-Davies & Goel 2018）ように、確かに基準となり得る公平性は一つではない。2023年6月29日のアメリカ最高裁判決 Students for Fair Admissions v. Harvard, 600 U.S. (2023) において、従来の判断を覆す人種を考慮したアファーマティヴ・アクションによる入学選考は違憲する判決が出たことも記憶に新しい。この主成分の全員がこのような複数の公平性基準に対する疑念を持っていたかどうかはわからないが、このような視点として解釈可能であり、zスコアも低く現れている。なお、他の公平性（FAR）項目においても相対的に低い位置づけが現れており、統計的有意差があり、低いzスコアの値が示されて特徴的と言える項目としても、この主成分から項目1、4、31と3つ現れている。自由記述からは31に関して次の2つの記述がある。

・(31) 「属性・能力に『関係なく』と条件設定してしまうと、困難者への支援を行う理屈が成り立たなくなってしまうでしょう。」

・(31) 「状況に依ると考えられるから。」

これらは実務的な視点を考慮しているようにも考えられる。公平性についていったい何が公平なのかという定義は簡単ではないし、先のように複数の公平

基準は存在し得る。そういった点でやはり公平性 (FAR) を単純に善として受け取らないという特徴があると言えるだろう。

そして、第三主成分ではコンプライアンス (CMP) も最も低い合計スコアが現れている。-1より低いzスコアでも項目15と9が現れている。-3に配置した自由記述は無かったが、「15. 組織にどんな損失があろうとも、私たちは常に正直であるべきだ。」は他の主成分と比べて非常にマイナス幅が大きい。9のルールや規範に関する順守意識も相対的に低い。また、統計の有意差は出ていないが、zスコア自体は「2. どんな結果になろうとも、非倫理的な行動を報告することは、すべての職員・従業員 (組織の構成員) にとって重要である。」も最も低い。これらからは、組織を守るためには必ずしも正直である必要がない、ルールや規範に順守に関してもより重要なものが少なくない、悪い結果が予想される場合にはすべての非倫理的な行動の報告にも目をつむらなければいけない場合もある、と解釈できる。組織の論理や体質を維持することに一定の意味があると考えているように思われる。

総じて、第三主成分は人間感情と人間関係をめぐる公共倫理に関しては、重要性を見出し、特に、社会貢献をはじめとする思いやりや公益へのコミットに対しては、恩返しやそこで達成感を感じられるというような認識があり、自己犠牲に関してもそれほど否定的に考えているわけでは無い。一方でカテゴリBのガバナンスをめぐる公共倫理に関してはそれぞれのサブカテゴリ、項目においても総合的、相対的に低い。この背後にあるものとして考えられるのは近い関係にある人や困っている人、あるいは社会的な問題。課題に対して寄り添おうとする気持ちが強い、すなわち共感力の高いことにあるのではないだろうか。共感力が高く、それを優先するがために、公平性 (FAR) や効率性 (EFF) という視点は矛盾を孕むものに見えてくる。またコンプライアンス (COM) についても自組織に対する守りの意識が生まれてくると考えると筋が通るように思えてくる。そこでこの第三主成分については共感力高き者 (Empathist) と名付けた。

(5) 第四主成分：論争的平等論点には同調する新自由主義志向者

第四主成分でzスコアが1を超えた項目は以下の項目であった。

F4>1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
34. 私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。	COM	0.50	-0.80	0.29	1.86
35. 同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。	FAR	2.01	1.47	0.96	1.47
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-1.58	-1.40	-1.47	1.45
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理しよう心がけている。	EFF	-1.14	1.77	1.12	1.44
31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	1.28	1.55	0.15	1.29
5. 私は、自分の行動を通じて社会に貢献したい	CPI	0.98	0.58	1.70	1.14
11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。	COM	1.06	-0.40	0.55	1.04

第四主成分でzスコアが-1を下回った項目は以下の項目であった。

F4>-1 項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
25. どんな結果になろうとも、違法行為を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）の責任である。	CMP	0.25	0.56	-0.78	-1.22
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-1.97	-1.26	0.43	-1.26
24. たとえ馬鹿にされようとも、他者の権利のために行動することを恐れない。	SS	0.47	-0.24	-0.16	-1.49
21. 自分たちの地域の活動への参加は当然のことである。	CPI	-0.65	-0.48	-0.16	-1.54

32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-1.58	-1.11	-1.33	-1.66
22. 私は、世の中をより公正な場所にするために、自分の持てるエネルギーの全てを費やすことをいとわない。	SS	-0.58	-0.76	-0.59	-2.12

第四主成分で統計的有意差が現れ、他の主成分のzスコアと比較して最も高いあるいは低いといった特徴が現れた項目は以下の項目であった。

F4 統計的有意差が現れた特徴的項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
33. 民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。	EFF	-0.55	-0.73	-1.48	0.03
29. 一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.15	1.20	1.13	-0.44
36. 私は、説明責任を果たすため、場合によっては市民を含む関係者に行動を正当化し、説明することを厭わない。	CMP	0.93	0.60	0.83	-0.67
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-1.78	-1.68	-1.48	-0.78

第四主成分で特徴的なのは効率性 (EFF) が高く、自己犠牲 (SS) が特に低いことにある。効率性 (EFF) が高いことについては、入力ミスによる項目13、20の値がある程度高いことも影響していないわけではないが、それよりも、項目18が相対的に高いこと、項目33、8が統計的有意な差があるものの中で他の主成分と比較して相対的に高くはないことが影響しており、明らかに他とは異なるものと言える。自由記述では項目33について一つあり、次のものである。

- ・(33) 「限られた予算のなかでサービスの向上を図るには民間マインドが必要とおもわれるため。」

この記述を鑑みても、財政規律の維持を重視すること、NPM 的な考え方に否定的ではないこと、それに伴うように、効率性の重要性を低く位置づけないのがこの主成分である。

自己犠牲に関しては - 1 以下の項目に22、32、24、3 の4つが入っており、いずれも他の主成分に比べて最も低い値となっている。特に項目22が顕著に低いのもまたこの特徴である。自由記述では次のような記述がある。

- ・(22)「公正とは何かあいまいであり、22. のように言い切れないため。」
- ・(22)「自分の生活も重要であり、すべてを犠牲にした活動はあらゆるものできないと考えるため。」
- ・(32)「稀有な人間であるという認識を自分ではもっておらず、他の誰かと同じような列に並んでいると考えているため。」
- ・(24)「他社への支援は自分を犠牲にするものではないため。」
- ・(3)「社会のために貢献したい気持ちはあるが、大きな犠牲を払う覚悟を持つような活動をしているつもりはないため。」

項目22の回答中には第三主成分でも示されたように、公正ということへの曖昧さが指摘されている。また、自身の生活の重要性、犠牲を払うまでの覚悟が持てないということも示されている。総じて、まずは自分の生活が成り立っていないと他のことは考えづらい、ということが他の主成分に比べて強く現れたものと言えるだろう。

このように自己犠牲 (SS) が低く現れた一方で、公益へのコミットメント (CPI)、思いやり (COM) に関しては必ずしも低くない合計値が現れている。先に思いやり (COM) 項目を確認すると、「34. 私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。」が最も z スコアが高く、他の主成分と比較しても非常に高い値が現れて、この値がサブカテゴリーの思いやり (COM) の高さをけん引している。他の思いやり (COM) 項目として特徴が現れているのはむしろ統計的有意差があり最も低い値が現れている項目29がある。また、「困っている人」との記述のある項目6と19については並みである。これらを踏まえて考えると、「個人的に知らない人」や「恵まれない人た

ち」といったような漠然とした対象や感情の動きに関する項目は高く、対象や行動が具体的な記述の項目になってくると低くなっていくことがわかる。

公益へのコミットメント (CPI) では項目 5 が 1 を超え、自由記述も 1 つあり、次の記述である。

・(5) 「目先の利益ではなく、中長期的な社会貢献を望んでいるから。」

この主成分に分類された全員が同じ意見ではないだろうが、「目先の利益」を必ずしも重視せずに「中長期的」な視座で見ているという考え方が現れているのはこの主成分の解釈の助けとなるものと言える。一方で、「21. 自分たちの地域の活動への参加は当然のことである。」が -1 以下の値のものとしてかつ他の主成分と大きな差を持つものとして現れているのは特徴的で、自己犠牲 (SS) でも見られたように、具体的な活動に関関わるようなものについては関心が低い、ないしは拒否的であることがわかる。他の公益へのコミットメント (CPI) の項目では特段特徴的なものは無いが、相対的にやや高い値のものが並んだことから、公益へのコミットメント (CPI) の項目の合計は低い値ではないものとなったと言える。

また、公平性 (FAR) は合計値としては高いが、他の主成分でより高いものが 2 つ存在するため、目立って高く見えないものとなっている。1 以上のスコアの項目は 35 と 31 であるが相対的にそれほど高いとも言えないものとなってしまっている。自由記述は次のものがある。

・(35) 「同じ仕事であるという条件が十分に整えられているのであれば性別に由らず平等であるべきだと思うから。」

・(31) 「基本的には人間は平等に扱われた状態で競争すべきだと考えているため。」

このように、記述内容をもても第一主成分と第二主成分で示されたものと大きな違いはないといえる。その他の公平性 (FAR) 項目では特段特徴は見られない。

コンプライアンス (CMP) については、第三因子ほどではないが、かなり低い合計値となっている。「25. どんな結果になろうとも、違法行為を報告す

ることは、すべての職員・従業員（組織の構成員）の責任である。」が相対的に最も低い値が現れており、第三因子との差もある程度あることから特徴的なものと言えるだろう。ここからは公益通報に関して懐疑的な見方をしていることがわかる。また統計的有意差が現れており、他の主成分よりも低い値が出ているものが「36. 私は、説明責任を果たすため、場合によっては市民を含む関係者に行動を正当化し、説明することを厭わない。」である。このように説明責任を果たすには労力がかかるために否定的であるのだろうか。その他のコンプライアンス（CMP）項目に関しては大きな値ではないが全てマイナスが示された。

総じてこの主成分はどのようにまとめることができるのか。第三主成分で示した共感力という観点では、具体的な人や行動に関する記述があるものが低く、対象が漠然としたものは高く現れているため、十分にあるとは言い難い。コンプライアンス（CMP）に関しては幾つか特徴的に低いものもありつつ概ね関心が低い、公平性に関しては確かに高いが同一労働同一賃金と差別的取り扱いへの反対を示す項目が高かった。共通して言えることがあるとすれば具体的かつ規範的な公平性を示すものは重要視している。効率性（EFF）に関して合計値が高が現れたが、他の主成分で高く現れる傾向の強かった13、20にけん引されたというよりも、財政規律の維持やNPM的な発想に対する支持が現れたと言えるのではないか。

以上を踏まえると、同一労働同一賃金と差別的取り扱いへの反対はしているが、新自由主義的志向への同調的価値認識があるように見える。なお、新自由主義は基本的には小さな政府を志向し、政府による規制その他を含めた介入や説明責任を求めることに対しては消極的であるため、第四因子のコンプライアンス（CPM）項目が低く現れているのとも合致する、また自己犠牲（SS）が低く、まずは自身の生活の確保を重視しようとするにも合致する。そのため、この主成分は論争的平等論点には同調する新自由主義志向者と名付けることとしたい。

5. 考察

（1）各主成分別属性、主成分間相関

ここではまずは主成分間相関と各主成分の属性を示し、これをもとに若干の考察を加えたい。

（2）考察

ここでは主成分間相関を確認しつつ、各属性の差異も含めて考察を示していくこととする。相関については、全体として強い相関があるものは無いが、弱い相関があるものは少なく、相関があると言えるものも1つある。第一主成分：公正“有私”の社会正義主義者は第二主成分：個々人の尽力の集合による社会善志向者と相関があるといえる0.5という相関係数が示された。これらはサブカテゴリ毎のレーダーチャートグラフを見ても効率性（EFF）に関して差があったもののそれ以外は概ね同じ方向性を示していた。効率性（EFF）に関しては、項目13、20の同じ内容の項目について第一主成分：公正“有私”の社会正義主義者と第二主成分：個々人の尽力の集合による社会善志向者との間で±が逆の項目になったことから、項目2つ分の差ができたことによる影響が大きい

表6 主成分間相関

	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
zsc_f1	1	0.5	0.19	0.32
zsc_f2	0.5	1	0.28	0.43
zsc_f3	0.19	0.28	1	0.32
zsc_f4	0.32	0.43	0.32	1

表7 各主成分の年齢層

F1 年齢層	人	F3 年齢層	人
20s	1	20s	2
30s	4	30s	1
40s	3	40s	3
50s	0	50s	1
60s	0	60s	1
70over	0	70over	0
F2 年齢層	人	F4 年齢層	人
20s	2	20s	0
30s	2	30s	1
40s	3	40s	3
50s	0	50s	1
60s	0	60s	0
70s	1	70over	0

表 8 各主成分の専門

F1 専門	人	F3 専門	人
行政学者	1	行政学者	6
政治学者	7	政治学者	1
F2 専門	人	F4 専門	人
行政学者	3	行政学者	1
政治学者	3	政治学者	4
どちらでもない ⁽³⁾ 、わからない、答えたくない	2		

表 9 各主成分の民間経験

F1 民間経験	人	F3 民間経験	人
任期の定め無しでの勤務経験有	3	任期の定め無しでの勤務経験有	3
任期付きでの勤務経験有	1	任期付きでの勤務経験有	0
アルバイト経験有	3	アルバイト経験有	5
全くない	1	全くない	0
F2 民間経験	人	F4 民間経験	人
任期の定め無しでの勤務経験有	1	任期の定め無しでの勤務経験有	0
任期付きでの勤務経験有	0	任期付きでの勤務経験有	0
アルバイト経験有	6	アルバイト経験有	3
全くない	1	全くない	2

め、本来はより高い相関係数が示された可能性が高い。

一方でこの2者は年齢層では前者は30代が多く、後者は比較的幅広い構成である。専門性では第一主成分は明らかに政治学者が多く、第二主成分はどちらとも言えない構成である。また、前者はアルバイト以外での民間経験がある者が半数であり、後者はほとんどがアルバイト経験のみである。本来であればよ

(3) 「どちらでもない」本来の調査の対象ではないが、専攻項目において専門が認められるものを選択していたため、除外しなかった。

り相関係数が高く示された可能性が高い関係ではあるが、属性をみると違いは大きい。第一主成分：公正“有私”の社会正義主義者は民間経験で得た何らかの思いを持ち、キャリアチェンジをして政治学者となったというような人が多いようである。

また、第一主成分に関しては、第四主成分：論争的平等論点には同調する新自由主義志向者の間では非常に弱い相関が示された。サブカテゴリ毎のレーダーチャートグラフや解釈結果としては必ずしも似ているようには見えないが、効率性（EFF）以外とコンプライアンス（CMP）以外は同じ符号であることから弱い相関係数として示されたものと思われる。この場合は項目13、20の入力ミスが無く測れていれば相関は示されなかったかもしれない。

第四主成分に含まれたP-サンプルは5名と少なかったが、年齢としては40代が多く、専門性では政治学者が多かった。政治学者が多いという点においては第一主成分と近い。一方で、第四主成分は民間経験者はアルバイトか全くない者のみであり、その点では違いがあると言えるだろう。

また第二主成分と第四主成分は弱い相関ではあるが、0.43と第一と第四主成分間よりも高い係数が示された。これも解釈ではあまり近いものとは思えないが、効率性（EFF）と自己犠牲（SS）を中心に近いzスコアが出ていたものと思われる。属性としては、政治学者の多い第四主成分と必ずしもそうでない第二主成分の違いはあるが、それ以外はあまり特徴的な属性の相違があるとは言えなさそうである。

第三主成分：共感力高き者（Empathist）は解釈でも他との傾向がかなり異なっていたが、第四主成分と弱い相関が示された。しかしながら、同一内容項目13、20問題が無ければおそらく0.3は超えなかったのではないかと考えられる。第三主成分は行政学者が多く、民間経験者もある程度居り、第四主成分の属性とは近いとは言えないだろう。

結果的には第四主成分が他の主成分全てと弱い相関が示されたが、同一内容項目13、20問題によるレバレッジが無ければ様相は異なるものとなったと考えられる。

なお属性の観点から考えると、第一主成分と第四主成分のほとんどが政治学者であったこと、逆に第三主成分のほとんどが行政学者であったことが興味深い。サンプル数が多い調査では無いので仮説的であるとは言いえないが、政治学者には社会正義に対する意識の強い者が多い一方で、相対的な数は減るが新自由主義的志向を有しているものも未だに一定層いるということがこのデータからは示された。また行政学者の中には PSM で言われるような社会的責任意識や人間関係での共感性が高い一方でコンプライアンス関係を重視せず、効率性に関してはむしろ嫌悪感を抱いていそうな者が少なからず居ることがこのデータから示されたと言えるだろう。

6. 結論：感想へのフィードバックを含めて

本研究は、「公的領域（public sphere）の形成に関わるアクターがどのような公共倫理観を有しているのか」を前提となる問として、パイロット調査として実施した公的領域の形成に深く関わる政治や行政というものを学術的対象として研究・教育している、行政学者・政治学者を対象とした2023年6月にオンライン調査の結果と分析、解釈を示してきた。

結果として、4つの主成分を抽出し、第一主成分：公正“有私”の社会正義主義者、第二主成分：個々人の尽力の集合による社会善志向者、第三主成分：共感性高き者（Empathist）、第四主成分：論争的平等論点には同調する新自由主義志向者としてまとめられる解釈を示した。

再三述べていることではあるが、同じ内容の項目が現れてしまったり、自由記述の指示文や回答欄のミスやバグがあったり等、入力する調査票設計時点での確認が十分でなかったことは大いに反省しているところである。しかしながら、言い訳ではあるが、4つの異なる解釈が可能な主成分を抽出することができ、公共倫理に関する P サンプルの主観的考えをそれぞれ示すことができたのは Q 方法論研究だからこそできたものであり、リッカート尺度等の調査方法ではこのように参加者の公共倫理に関する複層的で多様な類型としては示すことは不可能なものである。

また、Q方法論はPセットから抽出される類型を示せるということであるが、それは一般化されたものではない。一般化にあたっては、Q survey (またはQ2S) と呼ばれるリッカート尺度を用いた調査が必要になる。その方法としては幾つかあるが、例えば、それぞれ主成分、ないし因子分析を行った場合因子について、プラス・マイナスを含め特徴的な項目をピックアップし、大量のサンプルをもとに多項ロジスティック回帰等を用いた感度分析等を行い、一般的なQ方法論研究として結果として示された各類型がどの程度支持されるか等を確認することで、示された類型の一般性を示すことが可能である (Baker et al., 2010; Mason et al., 2018)。このように、応用的な調査を加えることで類型を一般的なものに近づける検証にも取り組むことはできる。

また、この調査はパイロット調査的なものとして協力を依頼したが、調査票問題以外に浮き彫りになった課題点について述べていきたい。まず挙げられるのは、調査項目に利用した言説の網羅性と重複性についてである。例えば、コンプライアンス (CMP) では組織の透明性に関する項目が一つあった方が良かったように思われる。また、他の項目では内容的に重なり、必ずしも必要でなかった項目もあったかもしれない。より厳選して項目を精査して置けば、36ではなく、30程度の項目に抑えられたかもしれず、そうした場合の調査参加者の負担感が大きく異なっていたように思われる。

また公共倫理というものの概念の整理についてもまだ議論が十分ではない。今回は6つのサブカテゴリに分けるということでやや視覚的なわかりやすさを意識していた面もある。しかしながら、これはこの研究に関する本質的なものであるため、政治哲学で語られる正義や民主主義等の議論を含め、さらに検討していく必要がある。

次に表現についてである。例えば自己犠牲 (SS) の項目に「私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。」というものがある。これは和訳する前の英文は「I am one of those rare people who would risk personal loss to help someone else」であった。“one of those rare people”を“稀有な人間の一人”として訳し

たのであるが、“rare”は稀有と訳すべきでは無かった。辞書的な直訳で“稀有”という言葉は確かにあるが、rareはnot commonといった意味からvery unusual意味までかなり幅広い意味を指す言葉であり、“稀有”は極限の意味のvery unusualに加え、「並外れた」というようなやや超越しているという意味を含むものである。「珍しい人」ないしは「奇質な人」といった訳の方が適切であっただろう。

本研究は将来的には国際比較も想定しているということもある。直訳、意識がなかなか全く同じ意味に捉えることが難しいことがあるということは承知の通りであるが、別言語にした場合も可能な限り近い意味で捉えられ、かつわかりやすい言葉や言い回しを用いることには今後非常によく注意し、英語母語者によるチェックだけでなく、バイリンガルチェック等も必要になってくるだろう。

なお、調査を体験してみた感想その他コメントもいくつか頂いたことからここで一部それらについての返答をしておきたい。まず挙げられるのは操作性、いわゆるユーザーとしての使いやすさ、User Interface（以下、UI）の問題である。「自分が評価した表が読み取りにくい。」、「回答数アップを考えると、iPhoneでの操作性が高まった方が良さそう。」、「回答の操作が面倒である。」、「最後の自由記入のページで、+/-を付けたカードを選ぶのは、若干手間なので、自動で表示してほしい。一瞬、自分の記憶の確実性や価値観の一致を試すためかと思ったが、自分の回答を確認できるので、そうではないと思い、したがって、自動で表示してくれればよいのではないか??」といったコメントがあった。

今回利用したQ Method SoftwareはWired Solutions社の提供する有料(Enterprise仕様月額\$199)のサービスである。無料で利用できるEQ ConfiguratorやKenQ Analysis Desktop Edition(以下、KADEと呼ぶ)(<https://shawnbanasick.com/>)(Banasick, 2019)等のサイトもあるが、比較的文字化け等も少なく、プログラムの知識が無くても直感的に利用がしやすく、スマートフォンでもやりやすいわけではないがQ分類を行うことが可能で設計の自由度も高いことからこれを利用した。

コロナ禍以前から運営しているサービスで、コロナ禍前は、自由記述で個別項目の認識データを得るよりも、インタビューによる定性的データの取得が主流であり、また、調査の実施も卓上配置が通常であった。オンライン調査、及び自由記述欄を活用した調査はここ最近利用が拡大してきたものであり、調査後の自由記述に関しては、高く配置したもの、低く配置したものを尋ねることは、未だデフォルトの調査方法ではなく、設計者側が初めから設計する必要がある。とはいえ挙げられた操作性の向上に関する論点はサービス提供会社に伝えることは可能であり、Q Method Software も操作性の向上を目指して比較的頻繁に更新しているため、要望として示せば新たな機能として実装される可能性はあるだろう。

また、KADE に関しては、2023年に入り大幅なバージョンアップがあったとのことでQ方法論研究のコミュニティにおいては注目されている。2023年9月にベルファストで開催される International Society for the Scientific Study of Subjectivity (ISSSS) の39th Q conference: Introduction to Q Workshop において、現在のQ方法論研究の第一人者の一人である Dr Susan Ramlo (University of Akron) が KenQ Analysis Desktop Edition, KADE を用いたデモンストレーションを行いQ方法論の紹介講演を行った。調査票の設計、オンラインでの調査実施は EQ Configurator を用いるが、こちらはスマートフォン端末ではQ分類がまだ行えないという問題がある。

なお、KADEの開発者である Dr Shawn BANASICK は日本の神戸女学院大学の所属であり、KADEも一部日本語での紹介等もある。日本で働く Dr BANASICK に何らかの形で支援・協力することで、より日本語でもトラブルなく、使いやすいUIにしていける可能性はあるかもしれない。

次に多かったのが回答者への負担の問題である。コメントには次のようなものがあつた。

・「正直、回答者への認知負荷が大きいと感じた。研究者だからと言って、サーベイの回答に対する負担を感じないわけではない。」

・「大変興味深い方法論であると感じました。一方で、ピラミッド状に配置す

る作業などはパソコンの画面上で操作するのは難しかったことなど、回答者としては手間がかかるようにも感じられました。とはいえ、こうしたQ方法論がどういった研究へと発展するのか大変楽しみです。〕

・「Q-SORTの主旨がよくわからず、作業に苦勞した。」「・ひとつひとつの選択肢に長いものが多く、“Final Sort”や“Survey”のときに発見しづらかったり、選択肢どうしの違いがすぐにわからなかったり、ということが多かった。〕

回答者の負担の問題はなかなかQ方法論の活用が広がらない理由の一つでもある。Q方法論においては、回答者に対して言説を自身で解釈し、自身で他の言説と比較して優先順位をつける作業であるので、36の項目であっても完答するのに疲れてしまう。特にオンラインの調査では対面や卓上で調査する際よりもその負担感が大きいのではないか、ということは常々指摘されることもある。そのため、回答のお願いをしたとしても途中でやめてしまうケースが少なくない。現代の研究倫理では、回答を強制しないこと、回答を途中で辞める権利があることを同意書に明記することが通常であり、途中で回答を辞めてしまうことに対してはどうしようもない。総項目数の半数以上の回答があれば、論文とするには足りる（Watts & Stenner, 2012）。とは言われているが、実際のところ半分程度ではなかなか十分な解釈までは難しく、できれば項目数程度までの回答が欲しいところである。

調査設計者側からできる工夫としては、遠隔地でのオンライン調査の場合は、より言説記述を短く、項目数を減らし、負担感の少ないUIを利用することであると考えられ、そのようにできるように努めるしかない。また、もし、回答者を一定程度、一堂に会することが可能であるなら、会場までの往復の負担は生じるが、Q分類後の自由記述は紙面かPC等端末上での入力を選択できるようにする等負担感を少しでも軽減する方法を考えることができるなど、他にも工夫の余地はあるだろう。

また、次のように言説の理解や項目の多さや信頼性、自身の回答の再現性に関する指摘のコメントがあった。

・「直感的に回答することが困難で、どういう作業をすればよいのか見当がつか

かなかった。途中で回答をやめなくなる。およそ正確にわたしの考え方を反映しているとは思えない。あるいはそういう調査なのかもしれないが。」

・「かなり難しいと感じました。方法自体は一度やればわかりますが、初見ではやや戸惑います。それ以上に、カードの言明が抽象的かつ多義的なので、どう理解すれば良いか悩むものがありました。（ちなみに「てにをは」が変なものもいくつか見られました。）解釈の幅が広いので、調査結果をどのように用いるのか疑問に思いました。また、カードの配置は正規分布に合わせることを求めています、個人の価値観が正規分布状である保証はないように思います。この点も方法的に問題とならないかどうか気になります。」

・「15～20分で終わるという説明でしたが、もっと時間がかかります。しかも、途中で退出（一時保存）することができない。隙間時間に取り組み始めたので、たいへん困りました。これだけ質問項目が多いと、最後の記述はたいへんです。私は真面目に記述しましたが、全体としてはいい加減な記述が増えて信頼性が低下するのではないのでしょうか？」

・「またもう一度同じ調査された際に、ほぼ同じような結果を回答するのか、やや自信がない。」

今回の調査は先にも示したがQコンコースは英文を和訳した調査であり、訳の適切さの検討も十分では無かったところであり、筆者の反省すべき点である。また、一方で本研究のテーマが公共倫理という抽象度の高いものを扱っており、その主観性を把握するということが目的である以上、抽象的な言葉や多義的な言葉を精査して完全に削り落とすということは難しい。また、これも次への重要な検討課題の一つであるが、すべての人に示された言説の一つ一つに納得して優先順位をつけてもらうことまでは難しいと考えられる。しかしながら、可能な限りそれに近づけるような言葉や表現は用いるべきであり、今後のQコンコースの再考過程においてはその点についても今回の調査の重要な反省点として捉えていく。とはいえ、全く正確に考え方を現すものでなくとも、回答者が示された共通する言説を決められた共通の数だけ強制的にマトリックスに当てはめ、そのデータを一定程度蓄えることで主観という捉えづらい価値観

を、いわば強制的に分析可能なデータとして落とし込むことがQ方法論というものの方法論的特質である。これによってようやく比較可能な主観性を示すデータが出来上がる。

また、ある程度抽象的な言葉や多義的な言葉を用いたところもあるが、それはある程度、研究の目的である主観性を把握するには必要な側面もあると考えている。その言説をどのように理解したのか、ということについてインタビュー調査や自由記述で得ることができれば、その回答者の主観的世界観の一面があらわになることでもあり、Q方法論において、定性的データを取得して、定量的データだけでなく、その解釈を豊かにする鍵となってくるものである。

また、書き込み内容のまま引用はしないが、次のような意見もあった。設計が雑で回答者が見てわかるほどのミスが多く、人にやってもらう調査のクオリティだとは思えない、不明瞭な文章が多く作業負担も重たいので取られたデータが正確だとも思えない。もっとちゃんと作って欲しい。という厳しいものであった。この回答者が非常に優しく寛大な方で、最後まで回答していただき、ご指導のコメントいただいたことに非常に感謝すると共に、設計が雑であることやミスがあったことは事実であり、適切に確認できなかったことについては大きな後悔と共に大きく反省している。

また、Q方法論のオンライン調査をこれまでも何度か実施しているが「不明瞭な内容で何をやっているかわからない」、「これをやることの意味がわからない」、「こっちは真面目に協力しようとしているのにこの作業の意味がわからない」といったような、やや怒りの混じった困惑観を示すコメントは、数は少ないが毎回ある。おそらく途中で回答を辞めた人もこのように思われて辞めた人も少なくないと思われる。リッカート尺度による調査のように直感的に回答できる慣れ親しんだ調査方法では無く、強制的に言説を読まされ、自身で解釈を必要とされ、さらに強制的に優先順位をつけなければいけないことを求められることに怒りを覚える、というのはわからなくもない。主観性という内面に関わる人によっては非常にセンシティブなことを把握しようしているため琴線に

触れやすい調査方法なのであろう。

一方で調査目的や調査の方法、意図等を丁寧に書けば書くほど、さらに回答者が真面目な人であればあるほど、それを読むための「面倒さ」は増してしまい負担感も増える。どの程度の記載にしておくべきか等にも気を使っているつもりではあるが、なかなかどのようにしたらバランスが取れるのかどうかはわからない。また、調査の対象者によっても記述の仕方や分量のバランスは変えていく必要もある。調査設計者としては繰り返し調査をしていくことでそのバランス感覚を養う必要がある。

一方で、調査目的、指示文などの書き方ではない、改善方策は存在する。それは、Q方法論がより多方面で、多数利用されることで、認知度が向上し、特殊な調査でなくなることで感じ方は変わってくるだろう。確かに面倒な作業を必要とする調査ではあるが、一度やってみればだいたいこのようなものか、という理解は非常に進む。これまで、関心はあったとしてもなかなかどのように図るのか難しかった人間の主観性を理解しようとするQ方法論は政治や行政、市民や何らかの組織に属する人等を深く理解する上で非常に有効な方法であると考えている。そしてまだ、日本においてはほとんど調査実績が無く、挑める領域は非常に幅広く存在する。本論の公共倫理というテーマからずれてしまったが、Q方法論という公共財ともいえる調査分析手法の広がっていくことを願っており、また、今後さらなる研究結果の発信を含め、それに対する具体的な貢献もしていきたい。

【謝辞】

今回の調査はパイロット調査として行ったものである、慣れない調査であることに加え、学期中の忙しい中、さらには急ごしらえの調査フォームであったために複数の入力ミスや設定ミス、バグの誘発までしてしまった調査に参加し、回答していただいた匿名の行政学者・政治学者に心より感謝申し上げる。また、調査項目の入力ミスによってデータにゆがみが出ってしまったことはフィードバックをするにあたって解釈にもゆがみをもたらすことになってしまう。そのようなミスを犯してしまったことに対しては大きく反省するとともに謝罪申し

上げたい。

【参考文献】

- Adams, G., Andersson, S., Balfour, D. L., O'Kelly, C., & Segal, L. (2016). *Legal but corrupt: A new perspective on public ethics*. Lexington Books.
- Banasick, S. (2019). KADE: A desktop application for Q methodology. *Journal of Open Source Software*, 4 (36), 1360. <https://joss.theoj.org/papers/10.21105/joss.01360.pdf>
- Baker, R. M., van Exel, J., Mason, H. & Stricklin, M. (2010) Connecting Q & surveys: three methods to explore factor membership in large samples, *Operant Subjectivity: The International Journal of Q Methodology*. 34, 1, 38–58.
- Beh, L. (2017). Public ethics and corruption in Malaysia. In *Public administration in Southeast Asia* 171–191.
- Bellé, N., & Cantarelli, P. (2017). What causes unethical behavior? A meta - analysis to set an agenda for public administration research. *Public Administration Review*, 77 (3), 327–339.
- Blundo, G., de-Sardan, J. P. O., Arifari, N. B., & Alou, M. T. (2008). *Everyday corruption and the state: Citizens and public officials in Africa*. Bloomsbury Publishing.
- Wright, B. E., Hassan, S. & Park, J. (2016). Does a public service ethic encourage ethical behaviour? Public service motivation, ethical leadership and willingness to report ethical problems, *Public Administration* 92 (3), 647–663.
- Brewer, G. A., Selden, S. C., & Facer II, R. L. (2000). Individual conceptions of public service motivation. *Public administration review*, 60 (3), 254–264.
- Brown, M. K. (1981). *Working the street: Police discretion and the dilemmas of reform*. Russell Sage Foundation.
- Bruijn, H. D., & Dicke, W. (2006). Strategies for safeguarding public values in liberalized utility sectors. *Public administration*, 84 (3), 717–735.
- Corbett-Davies, S., & Goel, S. (2018). The measure and mismeasure of fairness: A critical review of fair machine learning. *arXiv preprint arXiv:1808.00023*.
- De Graaf, G., Huberts, L., & Smulders, R. (2016). Coping with public value conflicts. *Administration*

- & *society*, 48 (9), 1101–1127.
- Dieteren, C. M., Patty, N. J., Reckers-Droog, V. T., & van Exel, J. (2023). Methodological choices in applications of Q methodology: A systematic literature review. *Social Sciences & Humanities Open*, 7 (1), 100404.
- Frederickson, H. G. (2005). Public ethics and the new managerialism: An axiomatic theory. *Ethics in public management*, 165–183.
- Goodnow, F. (1900). "Politics and Administration." in Jay Shafritz, Albert Hyde, Sandra Parkes, ed., (2004), *Classics of Public Administration*, 5 th ed. Belmont, CA: Thomson/Wadsworth.
- Hine, D. (2015). *Public ethics and political corruption in Italy*. Gonzalez, E. T. (2017). Public ethics and corruption in the Philippines. In *Public Administration in Southeast Asia* (pp. 381–396). Routledge.
- Mason, H., Collins, M., McHugh, N., Godwin, J., van Exel, J., Donaldson, C. & Baker, R. (2018) Is "end of life" a special case? Connecting Q with survey methods to measure societal support for views on the value of life-extending treatments, *Health Economics*. 27, 5 , 819–831.
- Maesschalck, J. (2004). Approaches to ethics management in the public sector: A proposed extension of the compliance-integrity continuum. *Public Integrity*, 7 (1), 20–41.
- Maesschalck, J., Van der Wal, Z., & Huberts, L. W. J. C. (2008). Public service motivation and ethical conduct. Motivation in public management: *The call of public service*, 157–76.
- Montgomery, J. (2013). Reflections on the nature of public ethics. *Cambridge Quarterly of Healthcare Ethics*, 22 (1), 9–21.
- Müller, D. (2001). Why and how can religions and traditions be plausible and credible in public ethics today?. *Ethical theory and moral practice*, 4 (4), 329–348.
- Jonsen, A. R., & Butler, L. H. (1975). Public ethics and policy making. *Hastings Center Report*, 19–31.
- Johnson III, R. G., Rivera, M. A., & Lopez, N. (2018). A public ethics approach focused on the lives of diverse LGBTQ homeless youth. *Public Integrity*, 20 (6), 611–624.
- Jørgensen, T. B., & Bozeman, B. (2007). Public values: An inventory. *Administration & society*, 39 (3), 354–381.

- Kernaghan, K. (2000). The post-bureaucratic organization and public service values. *International Review of administrative sciences*, 66 (1), 91–104.
- Keynes, J. M. (1937). The general theory of employment. *The quarterly journal of economics*, 51 (2), 209–223.
- Kim, Y.J. & Kim, E.S. (2016). “Exploring the interrelationship between public service motivation and corruption theories”, *Evidence-based HRM*, Vol. 4 No. 2 , pp. 181–186. <https://doi.org/10.1108/EBHRM-12-2015-0047>.
- Lee, H. J., Oh, H. G., & Park, S. M. (2020). Do trust and culture matter for public service motivation development? Evidence from public sector employees in Korea. *Public Personnel Management*, 49 (2), 290–323.
- Lipsky, M. (2010). *Street-level bureaucracy: Dilemmas of the individual in public service*. Russell Sage Foundation.
- Perry, J. L., and Wise, L. R. (1990). The motivational bases of public service. *Public administration review*, 367–373.
- Salminen, A., & Mäntyselä, V. (2013). Exploring the public service ethos: Ethical profiles of regional and local managers in the Finnish public administration. *Public Integrity*, 15 (2), 167–186.
- Selden, S. C., & Wooters, R. (2011). Structures in public human resource management: Shared services in state governments. *Review of Public Personnel Administration*, 31 (4), 349–368.
- Stapenhurst, F., & Langseth, P. (1997). The role of the public administration in fighting corruption. *International Journal of Public Sector Management*.
- Stephenson, W. (1935). Technique of factor analysis. *Nature*, 136, 297.
- Stephenson, W. (1953). *The study of behavior: Q-technique and its methodology*. Chicago: University of Chicago Press.
- O'Connor, K. (2017). What are the ideas and motivations of bureaucrats within a religiously contested society? *International Review of Administrative Sciences*, 83 (1), 63–84.
- Rayner, J., Williams, H. M., Lawton, A., & Allinson, C. W. (2011). Public service ethos: Developing a generic measure. *Journal of Public Administration Research and Theory*, 21 (1), 27–51.
- Ripoll, G., & Breaugh, J. (2019). At their wits' end? Economic stress, motivation and unethical

- judgement of public servants. *Public Management Review*, 21 (10), 1516–1537.
- Ripoll, G., & Schott, C. (2023). Does public service motivation foster justification of unethical behavior? Evidence from survey research among citizens. *International Public Management Journal*, 26 (1), 1–22.
- Vichit-Vadakan, J. (2017). *Public ethics and corruption in Thailand*. In *Public Administration in Southeast Asia* (pp. 79–94). Routledge.
- Waldo, D. (1968). Scope of the Theory of Public Administration, " James C. Charles worth (ed.), *Theory and Practice of Public Administration*, The American Academy of Political and Social Science.
- Waldo, D. (1975). Political Science: Tradition, Discipline, Profession, Science, Enterprise, in Fred I. Greenstein and Nelson W. Polsby (eds.), *Political Science: Scope and Theory, Vol. 1 of Handbook of Political Science*, Addison—Wesley.
- Wang, L., & Murnighan, J. K. (2014). Money, emotions, and ethics across individuals and countries. *Journal of Business Ethics*, 125, 163–176.
- Warren, M. E. (2004). What does corruption mean in a democracy? *American Journal of Political Science*, 48 (2), 328–343. <https://doi.org/10.1111/j.0092-5853.2004.00073.x>
- Watts, S., & Stenner, P. (2012). *Doing Q Methodological Research: Theory, Method and Interpretation*. Sage.
- Wilson, W. (1887). The Study of Administration. *Political Science Quarterly*, 2 (2), 197–222. <https://doi.org/10.2307/2139277>
- Zabala, A., Sandbrook, C., & Mukherjee, N. (2018). When and how to use Q methodology to understand perspectives in conservation research. *Conservation Biology*, 32 (5), 1185–1194.

付録 A Q コンコース英語版

Sub	Statements
CPI	What motivates me the most is caring for other people and the common good.
CPI	Participation in their own community activities is given
CPI	I am motivated more by financial rewards rather than by making a positive contribution to the lives of individuals.
CPI	Making a positive contribution to society as a whole motivates me.
CPI	Making society a difference in society means more to me than personal achievement.
CPI	I want to contribute to society through my action.
COM	I often think about the welfare of people whom I don't know personally.
COM	It is difficult for me to contain my feelings when I see people in distress.
COM	I believe to be a supportive person of people in need.
COM	I am often moved by plight of the underprivileged.
COM	We should be motivated by making a positive contribution to the lives of individuals.
COM	We should be motivated by making a positive contribution to society as a whole.
SS	I am one of those rare people who would risk personal loss to help someone else
SS	I am prepared to make enormous sacrifices for the good of society.
SS	I am willing to use every ounce of my energy to make the world a more just place.
SS	For for me, contributing to society is more important than my own stable life.
SS	I would prefer to do what is best for the whole community even if it harmed my interests.
SS	I am not afraid to go to bat for the rights of others even if it means I will be ridiculed.
EFF	I put emphasis on acting to achieve results with minimal means.
EFF	I am responsible for finding the most efficient use of the resources that are entrusted to me.
EFF	Adopting private management styles is a good way of running the public sector.

EFF	Doing well financially is more important to me than making good deeds
EFF	I try to process my work as quickly and accurately as possible.
EFF	efficiency is more important than equity or fairness.
FAR	I treat every case equally.
FAR	To me, the most important goal is fairness.
FAR	Exactly the same compensation for the same work must be paid, independent of gender.
FAR	We should treat everyone in society the same, regardless of social class, gender, race, ability to pay
FAR	equity and fairness are more important than efficiency.
FAR	People should act to make society fairer.
CMP	Rules and norms must be obeyed under every circumstance.
CMP	Law and justice are the most important ethical principles.
CMP	I am willing to justify and explain actions to relevant stakeholders, including the citizens as the case may be, in order to ensure accountability.
CMP	We should be honest all the time what the cost to the organization,
CMP	It is the responsibility of every employee to report illegal behaviour, no matter what the consequences.
CMP	It is important of every employee to report unethical behaviour, no matter what the consequences.

付録B 各項目、各主成分のzスコア

項目	Sub	zsc_f1	zsc_f2	zsc_f3	zsc_f4
1. 公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。	FAR	1.65	1.99	-0.70	0.80
2. どんな結果になろうとも、非倫理的な行動を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）にとって重要である。	CMP	0.52	0.13	-0.98	-0.47
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-1.97	-1.26	0.43	-1.26
4. 人々は、社会をより公平にするために行動すべきである	FAR	0.60	1.00	-0.12	0.91
5. 私は、自分の行動を通じて社会に貢献したい	CPI	0.98	0.58	1.70	1.14
6. 私は、自身を困っている人を支えようとする人間だと思っている。	COM	0.30	-0.69	1.17	0.33
7. 社会全体に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.58	-0.22	1.32	-0.10
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-1.78	-1.68	-1.48	-0.78
9. ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。	CMP	-0.32	-0.71	-1.25	-0.59
10. 私はすべての案件を平等に取り扱う。	FAR	0.84	0.24	-0.28	-0.28
11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。	COM	1.06	-0.40	0.55	1.04
12. 法と正義は、最も重要な倫理原則である。	CMP	1.01	0.03	-0.83	-0.53
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。	EFF	-1.14	1.77	1.12	1.44
14. 最も意欲を掻き立てられるのは、他者への思いやりや公益に貢献することである。	CPI	-0.29	-0.75	1.00	-0.30

15. 組織にどんな損失があろうとも、私たちは常に正直であるべきだ。	CMP	0.23	0.08	-1.46	-0.17
16. 私にとっては、自分の安定した生活よりも、社会への貢献の方が重要である。	SS	-0.75	-0.82	-0.41	-0.34
17. 私は、最小限の手段で最大の成果を上げるために行動することに重きを置いている。	EFF	-0.68	0.54	-0.31	0.13
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-1.58	-1.40	-1.47	1.45
19. 困っている人を見ると、自分の気持ちを抑えることができない。	COM	-0.52	-0.81	0.40	-0.20
20. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。	EFF	-1.18	1.99	1.41	0.77
21. 自分たちの地域の活動への参加は当然のことである。	CPI	-0.65	-0.48	-0.16	-1.54
22. 私は、世の中をより公正な場所にするために、自分の持てるエネルギーの全てを費やすことをいとわない。	SS	-0.58	-0.76	-0.59	-2.12
23. 私にとって、最も重要な目標は「公平性」だ。	FAR	1.06	0.73	-1.56	0.17
24. たとえ馬鹿にされようとも、他者の権利のために行動することを恐れない。	SS	0.47	-0.24	-0.16	-1.49
25. どんな結果になろうとも、違法行為を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）の責任である。	CMP	0.25	0.56	-0.78	-1.22
26. たとえ自分の利益が損なわれても、社会全体のためになることをしたいと思う。	SS	-0.36	-1.44	1.15	-0.52
27. 人は社会から得た以上のものを社会に還元するべきだ。	CPI	-1.19	0.20	0.01	0.76
28. 社会全体への積極的に貢献することが、私のモチベーションを高めてくれる。	CPI	0.47	0.09	1.32	0.78

29. 一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0.15	1.20	1.13	-0.44
30. 個人的な成果よりも、社会に変化をもたらすことの方が自分にとって有意義なことである。	CPI	0.21	-0.43	0.42	0.34
31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	1.28	1.55	0.15	1.29
32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-1.58	-1.11	-1.33	-1.66
33. 民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。	EFF	-0.55	-0.73	-1.48	0.03
34. 私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。	COM	0.50	-0.80	0.29	1.86
35. 同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。	FAR	2.01	1.47	0.96	1.47
36. 私は、説明責任を果たすため、場合によっては市民を含む関係者に行動を正化し、説明することを厭わない。	CMP	0.93	0.60	0.83	-0.67

付録C 因子配置 (Factor Score 又は Factor Array と呼ばれる)

項目	Sub	fsc_f1	fsc_f2	fsc_f3	fsc_f4
1. 公平性と公正性は、効率性よりも重要だ。	FAR	3	3	-1	1
2. どんな結果になろうとも、非倫理的な行動を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）にとって重要である。	CMP	1	0	-1	-1
3. 私は、社会のために大きな犠牲を払う覚悟がある。	SS	-3	-2	1	-2
4. 人々は、社会をより公平にするために行動すべきである	FAR	1	2	0	1
5. 私は、自分の行動を通じて社会に貢献したい	CPI	2	1	3	2
6. 私は、自身を困っている人を支えようとする人間だと思っている。	COM	0	-1	2	1
7. 社会全体に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	1	0	2	0
8. 効率性は、公平性や公正性よりも重要である。	EFF	-3	-3	-3	-2
9. ルールや規範は、いかなる状況下でも従わなければならない。	CMP	0	-1	-2	-1
10. 私はすべての案件を平等に取り扱う。	FAR	1	1	0	0
11. 恵まれない人たちの苦境に心を動かされることが多い。	COM	2	0	1	2
12. 法と正義は、最も重要な倫理原則である。	CMP	2	0	-1	-1
13. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。	EFF	-2	3	1	2
14. 最も意欲を掻き立てられるのは、他者への思いやりや公益に貢献することである。	CPI	0	-1	1	0

15. 組織にどんな損失があろうとも、私たちは常に正直であるべきだ。	CMP	0	0	-2	0
16. 私にとっては、自分の安定した生活よりも、社会への貢献の方が重要である。	SS	-1	-2	-1	-1
17. 私は、最小限の手段で最大の成果を上げるために行動することに重きを置いている。	EFF	-1	1	-1	0
18. 私にとっては、良い行いをするよりも、財政的にうまくいくことの方が重要である。	EFF	-2	-3	-2	3
19. 困っている人を見ると、自分の気持ちを抑えることができない。	COM	-1	-2	0	0
20. 私は自分の仕事をできるだけ早く、正確に処理するよう心がけている。	EFF	-2	3	3	1
21. 自分たちの地域の活動への参加は当然のことである。	CPI	-1	-1	0	-3
22. 私は、世の中をより公正な場所にするために、自分の持てるエネルギーの全てを費やすことをいとわない。	SS	-1	-1	-1	-3
23. 私にとって、最も重要な目標は「公平性」だ。	FAR	2	1	-3	0
24. たとえ馬鹿にされようとも、他者の権利のために行動することを恐れない。	SS	1	0	0	-2
25. どんな結果になろうとも、違法行為を報告することは、すべての職員・従業員（組織の構成員）の責任である。	CMP	0	1	-1	-2
26. たとえ自分の利益が損なわれても、社会全体のためになることをしたいと思う。	SS	-1	-3	2	-1
27. 人は社会から得た以上のものを社会に還元するべきだ。	CPI	-2	1	0	1
28. 社会全体への積極的に貢献することが、私のモチベーションを高めてくれる。	CPI	0	0	3	1

29. 一人ひとりの人生に積極的に貢献することが、私たちの意欲につながるはずだと考えている。	COM	0	2	2	-1
30. 個人的な成果よりも、社会に変化をもたらすことの方が自分にとって有意義なことである。	CPI	0	0	1	1
31. 社会階級、性別、人種、支払い能力に関係なく、社会のすべての人を同じように扱うべきである	FAR	3	2	0	2
32. 私は、誰かを助けるために個人的なリスクが発生する恐れのあることでも行うような、稀有な人間の一人であると考えている。	SS	-3	-2	-2	-3
33. 民間の経営スタイルを取り入れることは、公共部門を運営する上で良い方法だと考えている。	EFF	-1	-1	-3	0
34. 私は、個人的に知らない人の福祉や幸福について考えることがよくあります。	COM	1	-1	0	3
35. 同じ仕事に対しては、性別によらず、全く同じ報酬が支払われなければなりません。	FAR	3	2	1	3
36. 私は、説明責任を果たすため、場合によっては市民を含む関係者に行動を正當化し、説明することを厭わない。	CMP	1	1	1	-1

付録 C 因子負荷量 (Factor Loadings)

Code	F1	F2	F3	F4
Q4CZ	0.56*	0.08	0.51	-0.06
S2SI	0.68*	0.14	-0.08	0.28
X36PY	0.72*	0.25	0.17	0.12
LTSS	0.74*	0.30	-0.08	0.22
A9YV	0.80*	0.30	-0.05	0.01
ZPF8	0.69*	0.29	0.25	0.08
NEEE	0.69*	0.00	0.46	-0.27
X18DX	0.79*	-0.15	-0.28	0.21
M2A3	0.28	0.71*	-0.17	0.35
X29BY	0.34	0.75*	0.28	0.24
VHZB	0.37	0.61*	-0.33	0.26
GLS3	0.12	0.75*	0.12	0.37
KCQZ	0.30	0.52*	0.01	-0.15
X9AG	0.35	0.53*	0.20	0.33
TM4A	0.21	0.44*	0.12	-0.01
YHUD	-0.01	0.69*	0.06	-0.23
XW5Y	0.34	0.22	0.55*	0.24
E776	0.07	0.27	0.74*	-0.14
L59N	0.14	-0.04	0.55*	0.38
X0T25	0.12	-0.05	0.69*	0.08
QSFC	0.26	0.02	0.61*	-0.01
OYMI	-0.24	0.30	0.66*	0.13
GQ0P	-0.11	-0.12	0.57*	0.03
X6A54	-0.12	0.34	0.42*	0.18
X88OO	0.10	0.24	-0.04	0.71*
GIDF	0.28	0.16	0.32	0.74*
Z9ES	0.31	0.23	0.26	0.69*
J2E0	-0.01	-0.19	0.18	0.58*
X0IK9	0.35	-0.05	0.20	-0.50*
H6R1	-0.29	0.38	0.42	0.21
MMSB	0.49	0.35	0.05	0.51
X85BA	0.41	0.10	0.35	0.22
W5KT	-0.10	0.30	0.22	0.12
WSKG	0.35	0.11	0.45	0.46
DZAW	0.19	0.43	0.02	0.44